

平成24年度
お茶の水女子大学部局別評価

自 己 評 価 書

平成 2 4 年 1 0 月

お茶の水女子大学理学部

目 次

I	理学部の現況及び特徴	1
II	目的	3
III	基準ごとの自己評価	5
基準 1	大学の目的及び部局等の使命・目的	5
基準 2	教育研究組織	7
基準 3	教員及び教育支援者	13
基準 4	学生の受入	17
基準 5	教育内容及び方法	22
基準 6	学習成果	52
基準 7	施設・設備及び学生支援	58
基準 8	教育の内部質保証システム	69
基準 10	教育情報等の公表	77

I 理学部の現況及び特徴

1 現況

- (1) 大学名 お茶の水女子大学理学部
- (2) 所在地 東京都文京区
- (3) 学部等の構成
 - 学科：数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科
- (4) 学生数及び教員数（平成23年5月31日現在）
 - 学生数：学部559人
 - 専任教員数：63人
 - 助手数：1人

2 特徴

お茶の水女子大学は、創設以来一貫して、女性の自立と社会的活躍、そして社会の知的基盤の充実に寄与してきた。

明治8年11月29日に開校した東京女子師範学校は女子初等教育に当たる女性の教育の場として設立されたが、後に中等教育の教員の養成の場ともなった。明治30年文部省令により、生徒を文科と理科に分け、明治31年4月にはじめての理科生徒18名が入学したが、同年に修業年限2年の研究科も設置され、次第に専門化されて来た。明治の終わり頃からより専門化され、昭和4年には第3学年以上は数学、物理、化学、生物の選修に改め、入学時に選修科目を決める制度をとっている。このようにして、専門化され理科の規模は次第に大きくなり、新制お茶の水女子大学理学部の誕生につながった。理系の卒業生の多くは教職に就いたが、向学心の旺盛な人々は、当時の女子に門戸を開いていた少数の大学に進学し、そのうち何人かは立派な研究業績をあげて、本学理学部の教官となったのである。

戦後、新制お茶の水女子大学が、「広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い、もって社会の諸分野における有為にして教養高き女子を養成し、併せて文化の進展に寄与することを目的とする」として誕生したが、教員養成のみならず、日本における理系女子の源流となるべく、理学部には、数学科、物理学科、化学科、生物学科の4学科が置かれ、向学心に溢れる多くの人材が集まった。昭和31年には、理学専攻科が設置され、さらに、昭和39年には、それを廃して、大学院理科学研究科（修士課程）が設置さ

れ、研究者・高度職業人養成にも答えられるようになった。平成2年には情報化の時代に対応して人材を輩出すべく情報科学科が新たに設置された。平成6年には理学部5学科の大講座化が行われ、理科学研究科情報科学専攻も設置された。その後、平成9年には大学院人文科学・理学・家政研究科（修士課程）が廃止され大学院人間文化研究科（博士前期課程・6専攻）に改組され、ライフサイエンス専攻生命科学系、物質科学専攻、数理・情報科学専攻がそれまでの修士課程に代わった。同時に、理学部の多くの教員は博士後期課程比較社会文化学専攻科学文化論、人間環境科学専攻、または複合領域科学専攻担当を兼任することとなった。

平成19年度からは、大学院は人間文化創成科学研究科に改組され、教員は研究院自然・応用科学系に在籍し、教育院ライフサイエンス専攻あるいは理学専攻での大学院教育、及び理学部各学科での学士課程教育を担当することとなった。

理学部誕生から60年余り、大学や企業における研究者、中等教育の教員など多くの有為な人材を輩出してきた。

上記のような伝統を踏まえ、理学部では、「広い視野に立った基礎科学教育を行い、その教育を通じて、社会の様々な領域におけるリーダーとして活躍できる女性を育成すること」を基本的理念としている。

理学部の5学科では、規模は大きくはないものの、できるだけ広い学問分野を含み、それぞれの分野で活躍している人材を教員として配置し、研究を背景とする基礎科学教育を少数精鋭主義の下で行ってきている。

平成20年度には、従来の教養教育を改革し、21世紀型文理融合リベラルアーツを始動した。「すべての女性の真摯な夢の実現される場であること、教養知と専門知、学術知と実践知を兼ね備えた女性が21世紀に羽ばたく」という大学の目標を反映した教養教育の実践に対して、理学部も積極的に協力し、サブジェクト・オリエンテッドな系列科目群（例えば、「生命と環境」、「ことばと世界」）の設計とその運営を行ってきた。

平成23年度より、全学的な学士課程教育の強化を目指し、複数プログラム選択履修制度を開始した。理学部でも、各学科で主プログラムと強化プログラムによる専門性の深化を図るとともに、副プログラムを用意し、専門

性の多様化を図るカリキュラム体制をとっている。加えて、理学部内を横断するような学際プログラム（応用数理、物理・化学、ケミカルバイオロジー、生命情報の4プログラム）を提供し、新たな領域融合型の専門領域に即応し、先端研究分野で活躍できる新たな専門人材の養成を目指している。さらに、理学部独自の取り組みとして卒業研究の学科間シフト枠を設けて、柔軟な履修制度基盤を提供した。この取り組みでは、所属学科以外の教員による研究指導を受けることで、研究分野の拡大を図っている。

平成21年度より、文部科学省の委託事業である「理数学生応援プロジェクト」採択大学に選ばれ、理数に関して強い学習意欲を持つ学生の意欲・能力を伸ばし、将来有為な科学技術関係人材を育成することを目的とした「理系女性の意欲と個性に根ざした複線の教育」を実行している。プロジェクトの一環として、特設授業群（科学英語、研究室早期配属、研修所インターンシップ、学会参加演習等）を設けて、高い専門的能力及び研究能力の早期獲得を目指した取り組みを行ってきた。

理学部では、各学問領域のフロンティアに関わることのできる卒業研究をはじめ、多彩な専門教育を通して、それぞれの分野についての深い学識と研究の基礎能力、および探求力を身につけた女子学生の育成を目指している。

Ⅱ 目的

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲あるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在し、130年に及ぶ女子高等教育の伝統を活かし、伝統に基づく知的・教育的遺産を継承するとともに、豊かな見識と専門性を備えた女性リーダーを世に送ることを志向している。女性が社会で活躍することが必要とされてきていることを考え、女性の持っている感性を生かして、新しい境界領域の分野の開拓を行い、女性特有のライフスタイルに合った教育課程・方法の開発を推進する。また、女性の社会進出の原動力となり、男女共同参画社会の実現に向けた基盤となる教育を行なう。今後、女性が社会で活躍する比率が増えなければならないことを考え、そのことの助けとなる教育体制を設け、生涯教育の要請があり、社会の要望も変化していることを先取りして、その一端を担う生涯教育のあり方を考える。これらを実現することを基本とし、以下を基本理念とした大学憲章を制定している。

- 1) お茶の水女子大学は、一人ひとりを大切にする豊かな教育文化を維持し続ける。
- 2) お茶の水女子大学は、未来を拓く基礎研究を重視する。
- 3) お茶の水女子大学は、海外との研究・教育上の人的交流・文化的交流を意欲的に進め、広く活動を展開し、国際社会において固有の存在感を発揮する。

web 資料 目的－0－1：お茶の水女子大学憲章

<http://www.ocha.ac.jp/introduction/charter.html>

理学部の目的

1. 教育にかかる目的

理学部の教育は、大学憲章に掲げた理念を実現すべく、高い倫理観と専門能力を備えた女性人材を育成し、国内外を問わず、それらの人材が活躍できる場を開拓していくことを目指している。

これまで日本は科学技術立国として発展してきたが、少子化問題により今後、女性技術者・研究者の増加が要望されている。社会に進出する女性の比率を増していくことに寄与するうえで、本学部の主要な目的は、社会の中でリーダーとして活躍できる高度専門知識を有する女性人材を育成することである。そのための教育方針を以下に示すカリキュラムポリシーとして掲げている。

「理学は、自然の成り立ちの原理・法則を探究する学問である。理学部では、人類の英知が蓄積された理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につける。自然とその中で展開する人間活動を扱う様々な場面において、多大な貢献が出来る次世代のリーダーあるいは中核となる人材育成のための教育を行う。」

web 資料 目的－1－1：学部課程のカリキュラムポリシー

http://www.ocha.ac.jp/program/curriculum_policy/undergrad.html

上記の目的を達成するための具体的取り組みとして、以下の項目を掲げる。

- 1) 理学に関わる充実した基礎及び専門教育を行う。
- 2) 理学の教育を通し、豊かな教養と高度専門知識を備え、境界領域を開拓できる人材を育てる。
- 3) 高度専門教育を行うため、4年で学部を終了する学生のためのカリキュラムと共に、博士前期課程への連携

を視野に入れた教育システムを構築する。

2. 研究に係る目的

理学部では、科学の諸分野において創造性ある研究を行うことと、境界領域の分野を開拓することが研究の主要な目的である。そのような研究活動を通して、女性指導者・女性研究者を育成することを基本理念としており、女性特有のライフスタイルに即応した研究のあり方を開発すること、女性リーダーの育成を通して男女共同参画社会の実現に寄与することを目標としている。これらを実現するため次の諸項目を挙げる。

1) 創造性と個性ある研究課題を推進し、その基礎的研究成果が国際的に認知される研究を行う。

研究を活発化して研究の拠点化を図り、国際交流を促進して高度な水準を維持するとともに、国際シンポジウムの開催、海外の学会への参加を通して、国際的に認知される研究を行う。併せて、研究活動の社会への発信を積極的に行い、研究成果の社会への還元を図る。

2) 境界領域の分野を発展させる。

基礎科学の分野において個性的な発想で独創的な研究を行うとともに、横断的に研究者間の交流を図り、新領域・境界領域の分野を開拓する。併せて、学内プロジェクト研究を遂行して重点課題や学際領域の研究を遂行する。

3) 女性研究者の資質やライフスタイルに即応した研究分野を広げ、女性の研究者を育成する。

女性の資質能力を十分に発揮可能な研究分野を開拓するとともに、女性研究者のモデルとなる研究のあり方を示し、女性のライフスタイルにより適した研究環境を開拓する。

4) グローバルリーダーとなり得る女性研究者の増加を誘起し、社会に貢献する。

世界の女性研究者、特にアジアの研究者との間にネットワークを形成し、連帯の下に共同研究を行い、その成果を世界に発信する。

理学部の各学科及び関連する大学院専攻課程においては、それぞれの専門領域、諸分野を可能な限りカバーしつつ、各分野において個性が輝く研究成果を挙げることを第一の目的としている。自然科学の基盤となる理学基礎分野の充実を目指し、独創性ある基礎的および基盤的研究を、本学部の目指すべき方向とする。更に分野を横断するような研究分野を開発することをわれわれの課題としたい。これらの研究活動の過程を通して、多くの優れた研究者を養成することが、われわれのもう一つの大きな目的である。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 大学の目的及び部局等の使命・目的

(1) 観点ごとの分析

観点①： 大学の目的（学部、学科又は課程等の目的を含む。）が、学則等に明確に定められ、その目的が、学校教育法第 83 条に規定された、大学一般に求められる目的に適合しているか。

【観点到係る状況】

学則第 1 条に本学の目的を定めている（資料 基準 1－①－A）。理学部には数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科の 5 学科を置き、理学部及びそれぞれの学科の教育目的については、学則第 3 条の 3 第 1 項及び第 2 項に明確に定めている（資料 基準 1－①－B）。

資料 基準 1－①－A 大学の目的

国立大学法人お茶の水女子大学学則（抜粋）

（目的）

第 1 条 国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)は、広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い、もって社会の諸分野における有為にして教養高き女子を養成し、併せて文化の進展に寄与することを目的とする。

資料 基準 1－①－B 理学部の目的

国立大学法人お茶の水女子大学学則（抜粋）

（理学部の目的）

第 3 条の 3 理学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し社会の多様な分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、第 3 条第 2 項に定める理学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

一 数学科

数学科は、数学的素養と論理的思考力を備え社会の様々な分野で主導的役割を果たすことができる人材及び現代数学の基礎知識と数学的論理思考を身に付け数理的諸科学の発展に貢献できる人材を養成する。

二 物理学科

物理学科は、自然科学の基礎である物理学の基礎知識を修得し、それを実際の問題に適用して解決する能力を身に付けた人材を養成する。

三 化学科

化学科は、様々な物質から成り立つ自然界を、原子・分子の構成とその変化の視点で捉え、得られた知識を体系化しつつ、化学の諸分野はもとより、生物学、物理学などの基礎分野から、工学や薬学、農学、医学、地球科学、情報学など多彩な応用分野まで幅広く展開できる人材を養成する。

四 生物学科

生物学科は、「生生物」の複雑で多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を有して豊かな人間社会の構築に貢献できる人材を養成する。

五 情報科学科

情報科学科は、20世紀に登場し新しい科学の対象となった「情報」というものを探究するための基礎となる知識や方法論と、その種々な応用の実態を学び、更にその成果の上に、これらを自ら開拓するための研究力の基礎を身に付けた人材を養成する。

【分析結果とその根拠理由】

本学の掲げる目的は、「広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い」、これによって、「社会の諸分野における有為にして教養高き女子を養成し、併せて文化の進展に寄与すること」である。当学部の目的は「理学の基礎知識を修得し、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し社会の多様な分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成すること」であり、また各学科の目的は、この当学部の目的を各専門領域の特質に即して展開したものである。

これらは、大学の目的、及び学部・学科の養成すべき人材像を明確に示しており、学校教育法第83条に規定された大学一般に求められる目的に合致していると判断される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

理学部及びそれぞれの学科の教育目的が明確に定められ、養成すべき人材像が明確に示されている。

【改善を要する点】

大学及び学部の教育目的や養成すべき人物像について、社会からの要求を取り入れるための工夫を検討する。

基準 2 教育研究組織

(1) 観点ごとの分析

観点①： 学部及びその学科の構成（学部、学科以外の基本的組織を設置している場合には、その構成）が、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点到係る状況】

理学部は、数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科の 5 学科から成り、理学系の基礎的教育を実施するのに必要な構成である（大学現況票 教育研究組織等【基準 2・4】 参照）。幅広い専門教育を行うのに必要な学科構成となっている。

【分析結果とその根拠理由】

理学の基礎となる、数学、物理学、化学、生物学、情報科学を教授できる学科構成であり、学則で掲げられた当学部の教育研究の目的を達成する上で適切なものと判断される。

観点⑤： 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。

また、教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が、適切に構成されており、必要な活動を行っているか。

【観点到係る状況】

本学の教育活動に関する審議組織は、全学的組織としての教育研究評議会及び部局ごとの教授会からなる。教育研究評議会規則及び教授会規則に、それぞれの役割に応じた審議事項が定められている（資料 基準 2－⑤－A）。

理学部の教育活動に係る事項は、理学部の教育を担当する専任教員によって組織された理学部教授会により審議される。理学部教授会は定期的開催され、教育活動に係る重要事項が適正に審議されている（資料 基準 2－⑤－B）。

全学の教務関係委員会の他、理学部にはカリキュラム委員会が設置され、理学部及び全学の教育課程や教育方法等を検討している。本委員会では、教育を実施する上での実務や教育課程や教育方法等の改善、改革について審議している（資料 基準 2－⑤－C）。

資料 基準 2－⑤－A 教授会等(教育活動に係る重要事項の審議組織)の役割

国立大学法人お茶の水女子大学教育研究評議会規則(抜粋)

(組織)

第 2 条 教育研究評議会は、次に掲げる評議員をもって組織する。

一 学長

二 学長が指名する理事

- 三 副学長(前号に該当する者を除く。)
 - 四 各学部長
 - 五 大学院人間文化創成科学研究科長
 - 六 大学院人間文化創成科学研究科研究院各系長
 - 七 附属学校部長
 - 八 その他学長が指名する職員
- (審議事項)

第4条 教育研究評議会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 中期目標についての意見(法人法第30条第3項の規定により文部科学大臣に対し述べる意見をいう。)に関する事項(国立大学法人お茶の水女子大学経営協議会規則第4条第1号に掲げる事項を除く。)
 - 二 中期計画及び年度計画に関する事項(国立大学法人お茶の水女子大学経営協議会規則第4条第2号に掲げる事項を除く。)
 - 三 学則(経営に関する部分を除く。)その他の教育研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項
 - 四 教員人事に関する事項
 - 五 教育課程の編成に関する方針に係る事項
 - 六 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
 - 七 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
 - 八 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
 - 九 その他教育研究に関する重要事項
- (会議の開催)

第5条 教育研究評議会は、原則として月1回開催する。

国立大学法人お茶の水女子大学教授会規則(抜粋)

(組織)

第2条 教授会は、当該学部等の教授をもって組織する。

- 2 教授会には、当該教授会の議により、当該学部等の准教授、常勤の講師、助教その他の職員を加えることができる。

(代議員会)

第3条 教授会は、当該教授会の定めるところにより、当該教授会に属する職員のうちの一部の者をもって構成する代議員会を置くことができる。

- 2 教授会は、当該教授会の定めるところにより、代議員会の議決をもって当該教授会の議決とすることができる。

(審議事項)

第4条 教授会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 学部又は研究科の教育課程の編成に関する事項
- 二 学生の入学、卒業又は課程の修了その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- 三 教員の採用及び昇任のための選考に関する事項

四 その他当該学部等の教育研究及び運営に関する重要事項

資料 基準 2－⑤－B 理学部教授会審議事項例

平成 23 年度 第 11 回 理学部教授会議事録

日 時 平成 24 年 3 月 7 日 (水) 10 時 00 分～11 時 20 分 15 時 00 分～16 時 15 分

出席者 午前 48 名、午後 48 名

I. 前回議事録の確認 平成 24 年 2 月 21 日 (火) 【サイボウズ】

II. 報告事項

1. 学部長報告

教育研究評議会

2/21 【資料サイボウズ】

部局長等連絡会

2/24、3/2

- ・ 大学改革WGにおいて、大学院の改革は学部にも拡大していくとの考えに基づき、学部よりも大学院の改革を先行して行っていくことが検討されていることの報告があった。
- ・ タイトなスケジュールの緩和及び学生の海外派遣の機会を増やすことを目的とし、授業時間数の見直しが検討されていることの報告があった。
- ・ 卒業生の進路状況について、各学科で再確認して欲しい旨要請があった。

2. 委員会等報告

学務部会会議

3/1

- ・ 国内の他大学との単位互換に関する 3 学部申し合わせ事項の一部改正について 【資料 1】

インターンシップ専門部会

2/17 【記録回覧】

- ・ 堀江部会員より、資料及び記録のとおり報告があった。

衛生委員会

2/20 【記録回覧】

セクシュアル・ハラスメント等人権委員会

2/22 【記録回覧】

附属学校委員会

2/20、27 【記録回覧】

- ・ 上記 3 件について、記録のとおり報告があった。

高大連携実施委員会

3/6

- ・ 小林 (哲) 委員より、理学部に受入申請のあった 3 名の選択基礎受講者について、受け入れることが決定されたこと、高大連携入学者 4 年次学生の追跡調査結果が示されたこと、平成 24 年度選択基礎受講者に対するガイダンスが、4 月 24 日に実施されることが報告された。

理学部自己点検・評価委員会

2/23

- ・ 最上学部長より、部局別評価の記載項目を委員間で分担したこと、外部評価委員の優先順位を決定したことが報告された。

3. 非常勤講師資格審査委員会の報告について

化学科 1 件

- ・ 審査委員全員の賛成が得られたことの報告があった。

III. 審議事項

1. 平成 24 年度学部一般入試（前期日程）合否判定について【資料回収】

数学科	14 名
物理学科	17 名
化学科	14 名
生物学科	18 名
情報科学科	24 名
合格者計	87 名

2. 平成 24 年度私費外国人留学生（学部留学生）特別入試合否判定について【資料回収】

数学科	0 名
化学科	0 名
生物学科	0 名
合格者計	0 名

3. 非常勤講師資格審査委員会の報告に基づく賛否の投票について

化学科 1 件

- ・ 投票の結果、非常勤講師の資格を了承した。

4. 平成 24 年度非常勤講師の委嘱取りやめについて【資料 2】

5. 平成 24 年度非常勤講師の委嘱について【資料 2 及び回覧】

6. 学生の退学、休学及び復学について【資料 2】

- ・ 上記 3 件について、資料のとおり了承した。

7. 転学部の可否について【資料 2】

生活科学部人間生活学科生活社会科学講座 長谷 真理子（平成 22 年度生） 理学部化学科へ転学部

- ・ 上記の転学部を了承した。

8. 平成 24 年度高大連携特別科目「選択基礎」受講可否について【資料回収】

- ・ 受講希望者全員（物理学科 1 名、化学科 1 名、生物学科 1 名）を受講可とした。

9. 「学士課程カリキュラム・ポリシー」及び「学士課程ディプロマ・ポリシー」について【資料 3】

10. 東京海洋大学との間における学生交流に関する協定について【資料 4】

- ・ 上記 2 件について、資料のとおり了承した。

11. 学部内委員会委員の選出について【資料 5】

- ・ 別紙のとおり選出した。

12. 平成 24 年度学部教育研究協力員の受入れについて【資料 2 及び回覧】

受入期間：H24. 4. 1～H25. 3. 31

物理学科 1 件 田代 徹氏 推薦教員：森川 雅博教授

IV. その他

- ・ 室伏教授より、お茶水学術事業会の 1 部門として位置付けられた、東日本大震災による孤児や遺児を支援する「夢のつばさプロジェクト」について紹介があった。

以 上

資料 基準 2-⑤-C 理学部カリキュラム委員会審議事項例

平成 23 年度第 3 回理学部カリキュラム委員会議事録

平成 23 年 12 月 8 日（木）12 時～12 時 45 分 理学部会議室後半部分

出席者（敬称略）：最上、堀江、曹、外館、小川、近藤、寫田、萩田、加藤、（教育支援チーム）山崎、（教務チーム）伊藤

1. 3 年次編入生の複数プログラム選択履修制の制限に関して

各学科の意向が紹介された。

数学科 原則として主と強化を履修すると募集要項に明記したい。

物理学科 要項には何も書かない。履修指導で対応する。

化学科 未定

生物学科 原則として主と強化を履修すると募集要項に明記したい。

情報科学科 原則として主と強化を履修すると募集要項に明記したい。

化学科の意向が決まり次第、理学部から教育企画室に提出して入試要項への掲載に関して審議をお願いすることになった。

2. 平成 24 年度非常勤講師枠（2 コマ、4 単位分）削減について

平成 24 年度の 2 コマの削減に関して、以下の 2 案を、学科に持ち帰り審議していただいた。

A 案 情報 1 単位、数学 1 単位、化学 2 単位

B 案 情報 1 単位、数学 1 単位、化学 1 単位、生物 1 単位

情報科学科と数学科は、1 単位分の削減に同意した。

化学科は B 案を希望し、生物学科は A 案を希望した。ただし、生物学科は、プログラム制導入にあたり、専門科目を精査して 24 年度で廃止にする科目があるため、A 案で合意すれば、平成 25 年度には 2 単位分の削減に応じるつもりであるという意向が提出された。本委員会では決定できないため、化学科と生物学科の話し合いで A 案（平成 25 年度に生物が 2 単位分の削減に応じるという前提）と B 案（付帯事項はなし）のどちらにするかを決め、他学科はその結論を承認することとした。

3. カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの作成について

配布資料（作成依頼文書と参考資料）に基づき、最上理学部長が、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの作成に関する説明を行った。理学部カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの学部長案が紹介された。各学科で、数行から 5～6 行の長さで、2 つのポリシーを作成していただき、1 月のカリキュラム委員会で理学部全体での確認作業を行うこととした。

4. 理学部 FD 活動に関するフリーディスカッションの成果に関して

平成 23 年 12 月 7 日（水）理学部教授会の後で、FD 活動に関するフリーディスカッションを行い、今後の FD 活動のあり方を再考した。そのときに出された意見を、配布資料に基づき、最上理学部長が紹介した。さらに、フリーディスカッションの中で、理学部 FD 活動について、次のような方向性を見出したことが報告され

た。「小林哲幸先生から提案された 4 大学コンソーシアムでの FD 講演会の様子を記録したビデオを理学部教員が視聴できるようなデジタル・アーカイブに作成する。この作業を情報基盤センターの浅本先生にお願いする。」

【分析結果とその根拠理由】

理学部教授会は、定期的開催され、教育活動に係る重要事項の審議、協議を行っている。以上のことから、本教授会が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を十分に行っていると判断される。

また理学部カリキュラム委員会は、理学部及び全学の教育を実施する上での実務や教育課程や教育方法等の改善、改革について審議しており、必要な活動が適切に行われていると判断される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

小規模大学の限られた教員数の中で、理学の基礎となる、数学、物理学、化学、生物学、情報科学を教授できる学科構成であり、大学及び学部の研究の目的を達成する体制を維持している。

【改善を要する点】

専任教員数の減が続く中で、教育活動に係る重要事項を審議したり、教育課程や教育方法等を検討するための組織やその運営について、より一層の効率化を行う必要がある。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点①： 教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制が確保され、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

【観点に係る状況】

本学では、教員は大学院人間文化創成科学研究科研究院に所属している。主に、研究院自然・応用科学系、先端融合系に所属する教員が理学部の教育を担当している。理学部は5学科からなり、各学科はそれぞれ2講座により構成され、各学科の専門教育を担う体制となっている（資料 基準3－①－A）。

理学部全体の教育課程運営は学部長が責任を持っている。各学科の教育運営は学科長が責任をもつ。各学科は学科長を議長とする教室会議を定期的に開催し、それぞれの学科の教育運営について協議している。学部長を議長とする学科長会議は、月に一度開催され理学部の教育運営について将来構想から通常実務まで検討審議している。各教員は適切な役割分担の下で、各学科、学部 of 教育運営に携わっている。

資料 基準3－①－A 学部の教員組織の編成

国立大学法人お茶の水女子大学学則（抜粋）

（学部）

第3条 本学に、次に掲げる学部を置く。

文教育学部

理学部

生活科学部

2 学部の学科及び収容定員等は、次の表のとおりとする。

～（略）～

3 前項に規定する学科に、次に掲げる講座を置く。

文教育学部

人文科学科 形象分析学講座、哲学講座、比較歴史学講座、地理学講座

言語文化学科 日本語・日本文学講座、中国語圏言語文化講座、英語圏・欧州言語文化講座、応用言語学講座、日本語教育講座

人間社会科学科 応用社会学講座、教育科学講座、心理学講座

芸術・表現行動学科 舞踊教育学講座、音楽表現講座

理学部

数学科 数理構造講座、数理解析講座

物理学科 基礎物理学講座、物性物理学講座

化学科 構造化学講座、反応化学講座

生物学科 構造生物学講座、機能生物学講座

情報科学科 情報数理講座、情報処理講座

生活科学部

食物栄養学科 食物栄養学講座
 人間・環境科学科 人間・環境科学講座
 人間生活学科 発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座

【分析結果とその根拠理由】

教員の適切な役割分担の下で、理学部及び各学科の教育運営を担い責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされていると判断される。

観点②： 学士課程において、教育活動を展開するために必要な教員が確保されているか。また、教育上主要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置しているか。

【観点に係る状況】

各学部・学科の専任教員配置は、大学現況票のとおりである。また、理学部で開講された授業科目において、専任教員が担当した授業は、（授業時間数による比較では）全授業の約 62% を占める（資料 基準3－②－A）。

資料 基準3－②－A 学部非常勤講師の「教育上主要と認める授業科目（注1）」担当状況（平成23年度）

注1：「教育上主要と認める授業科目」とはコア科目と教職科目を除いた科目とする。

区 分	非常勤講師		開講総時間数 [常勤・非常勤] (b)	非常勤講師 の担当比率 (a/b)
	人数 (※1)	時間数(a) (※2)		
文教育学部	237 人	6943	20415	34.0%
理学部	130 人	3371	8850	38.1%
生活科学部	93 人	2500	9225	27.1%
計	460 人	12814	38490	33.3%

※1：非常勤講師人数は実数（教員個人番号から算出）

※2：非常勤講師時間数は延べ数

（出典：教務チーム作成）

【分析結果とその根拠理由】

すべての学科で、大学設置基準上の教員数・教授数を満たしている。また、主要な科目の約 62%を専任教員が担当しており、主要な授業には専任教員を配置していると判断される。

観点⑦： 教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。
 また、TA等の教育補助者の活用が図られているか。

【観点に係る状況】

教員以外の教育支援者の数は大学現況票に示す。教育課程を遂行するための事務組織として、教務チーム(17名)及びファカルティ支援チーム(7名)、学生・キャリア支援チーム(15名)がある(資料 基準3-⑦-A)。また、情報基盤センター及び湾岸生物教育研究センターに各1名の技術職員を配置している。この他、理学部各学科の教務、図書管理関係の事務を補佐する非常勤職員のアカデミック・アシスタントが全学予算で配置されている(数学科1名、物理学科2名、化学科2名、生物学科1名、理学部共通図書室(物理学、化学、生物学)1名、情報科学科2名)。

また、TAが必要な演習、実習の科目については前年度に計画し配置を決めている(資料 基準3-⑦-B)。

資料 基準3-⑦-A 教育支援担当事務職員等の配置状況(平成23年5月現在)

区 分	事務職員	技術職員	計
教務チーム	17人	0人	17人
ファカルティ支援チーム	7人	0人	7人
学生・キャリア支援チーム	14人	1人	15人
図書・情報チーム	18人	0人	18人
計	56人	1人	57人

※非常勤職員、派遣職員も含む

※学生・キャリア支援チームのキャリアアドバイザーは事務職員に計上。国際学生宿舎の臨時用務員は技術職員に計上。

※アカデミック・アシスタントは事務職員に含む。

(出典：お茶の水女子大学職員録)

資料 基準3-⑦-B TAの配置状況(平成23年5月現在)

区 分	開講授業数	TA 申請 授業数	TA 配置 授業数
文教育学部	777	143	132
理学部	431	103	88
生活科学部	468	76	75
大学院人間文化創成科学 研究科(博士前期)	539	62	54
計	2215	384	349

(出典：ファカルティ支援チーム)

【分析結果とその根拠理由】

大学において編成された教育課程を遂行するのに必要な事務組織に適切な数の職員が配置されている。また、

申請のあった授業科目の多くに TA が適切に配置されている。以上のことから、教育課程を遂行するに必要な教育支援者及び TA 等の教育補助者の活用が図られていると判断される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

現時点で教育活動を展開するために、必要な教員により組織的な教育がなされている。

【改善を要する点】

教員定数の削減により、非常勤講師の担当割合が増加してきている（平成 21 年度：22%→平成 23 年度：38%）。さらに、第 2 期中期目標期間中（平成 22 年度から 27 年度）に、理学部教育を担当する専任教員の定年退職者及び退職予定者数は 10 名である。現在の人事計画では後任補充が認められているのは 4 名であり、第 2 期中期目標期間終了時点で現在の教育研究の水準を維持し、教育目的に掲げる人材養成を行うのは厳しい状況になることが予想される。対応策の早急な検討が必要である。

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

本学では、平成 12 年度に、それぞれの教育の目的に沿って、学士課程における全学、各学部、各学科等に関する入学者受入方針（アドミッション・ポリシー。以下 AP）を策定し、求める学生像や入学者選抜の基本方針等を明示することとした。

web 資料 基準 4-①-1	学部の入学者受入方針（大学ホームページ「入試情報」） (http://www.ao.ocha.ac.jp/admissionpolicy.html)
web 資料 基準 4-①-2	学部の入学者受入方針（「平成24年度入学者選抜要項」 [学部] p.3） (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_about.pdf)

【分析結果とその根拠理由】

AP は、それぞれの教育の目的に沿って、全学、各学部、各学科等で策定され、募集要項の配布や大学ホームページにおける掲載等により、多方面に公表、周知されている。以上のことから教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された AP が明確に定められていると判断される。

観点②： 入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されているか。

【観点到係る状況】

本学では、学部入試においては学科等の募集単位ごとに、AP に沿った学生の受入れを実施している。

学士課程の一般選抜の前期日程入試においては、大学入試センター試験及び本学の個別学力検査を課し、募集単位ごとに受験科目や配点に配慮することで AP に対応したものとなっている（web 資料 基準 4-②-1、2）。

一般選抜の後期日程入試、推薦入学特別選抜、帰国子女・外国学校出身者特別選抜、私費外国人留学生特別選抜、第 3 年次編入学学生選抜においては、学力検査等に加え、小論文試験や、面接又は口述試験等も行い、AP に沿った能力や適性を判定している（web 資料 基準 4-②-2～5）。

A0 入試では、AP に掲げた人物像を重視するため、高い学際性、国際性、コミュニケーション能力等について、文系理系双方の講義や英語の講義を聞いて集団討議し、それを踏まえて小論文を論述させるなどの試験を行っている（web 資料 基準 4-②-6）。

高大連携特別選抜では、大学教員との連携による授業（2 科目）を履修している附属高校生徒を対象とし、授業の履修過程において、募集単位の AP との適合性を判定している（別添資料 基準 4-②-7）。

web資料 基準 4－②－1	平成24年度 入学者選抜要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_about.pdf)
web資料 基準 4－②－2	平成24年度 一般入試(前期日程・後期日程)募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_general.pdf)
web資料 基準 4－②－3	平成24年度 推薦入試・帰国子女外国学校出身者特別入試募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_recommendation.pdf)
web資料 基準 4－②－4	平成24年度 私費外国人留学生(学部)募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_foreign.pdf)
web資料 基準 4－②－5	平成24年度 理学部 第3年次編入学募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_ri.pdf)
web資料 基準 4－②－6	平成24年度 A0入試(アドミッション・オフィス入試)募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_ao.pdf)
別添資料 基準 4－②－7	高大連携特別選抜学生募集要項(抜粋)

【分析結果とその根拠理由】

AP に沿った学生を選抜するため、学部入試では、受験科目や配点への配慮、小論文や面接の重視（一般入試）、集団討議や英語講義の実施（A0 入試）、連携授業による適性の確認（高大連携特別選抜）などを行っている。以上のことから、AP に沿って適切な学生の受入方法が採用されていると判断される。

観点③： 入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点到に係る状況】

入試実施体制として、入学試験実施委員会の下に、学部入試実施部会を設置している（web資料 基準 4－③－1、2）。入学者選抜に係る各種の要項については、教授会等の検討を経て入試実施部会で決定している。

学部の入試においては、学部入試実施部会の下に、入試方法専門部会、入試問題専門部会、A0入試専門部会を置いている（資料 基準 4－③－A～C）。入試問題専門部会では一般選抜における作問の取りまとめを、入試方法専門部会では入試の実施方法に関する具体的な検討を行い、A0入試専門部会では、A0入試に関する企画や実施等を担当している。入試の実施に係る業務や採点等は、学部入試実施部会が直接掌握し、運営している。

合格者判定については、厳密な採点とその検査を経て、多数の集計員による厳格な成績集計確認のもとに判定資料が作成される。この資料に基づき、学部入試では各学部教授会の議を経て合格者の決定を行っている。

なお、情報公開の観点から、一般選抜終了後には、各出願区分の合格者数、合格者平均点等の情報を大学ホームページで公開しており（web資料 基準 4－③－3）、希望者には入試成績の開示を行っている（前掲 web資料 基準 4－②－2（p.18））。

資料 基準 4－③－A 国立大学法人お茶の水女子大学入試方法専門部会細則

国立大学法人お茶の水女子大学入試方法専門部会細則(抜粋)

(設置)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学学部入試実施部会規程第7条第1項の規定に基づき、学部入試実施部会に入試方法専門部会（以下「専門部会」という。）を置く。

(趣旨)

第2条 この細則は、学部入試実施部会規程第7条第2項の規定に基づき、専門部会に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第3条 専門部会は、学部入試実施部会のもとで、入学者選抜方法について具体的方策を検討するとともに、その実施にあたる。

資料 基準 4－③－B 国立大学法人お茶の水女子大学入試問題専門部会細則

国立大学法人お茶の水女子大学入試問題専門部会細則(抜粋)

(設置)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学学部入試実施部会に入試問題専門部会（以下「専門部会」という。）を置く。

(趣旨)

第2条 この細則は、学部入試実施部会規程第7条第2項の規程に基づき、専門部会に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第3条 専門部会は、学部入試実施部会委員のもとで、一般選抜に係る学力検査実施教科・科目について、出題の具体的措置を定めるとともに、その実施にあたる。

資料 基準 4－③－C 国立大学法人お茶の水女子大学アドミッション・オフィス入試専門部会細則

国立大学法人お茶の水女子大学アドミッション・オフィス入試専門部会細則(抜粋)

(設置)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学学部入試実施部会規程第7条第1項の規定に基づき、学部入試実施部会にアドミッション・オフィス入試専門部会（以下「専門部会」という。）を置く。

(趣旨)

第2条 この細則は、学部入試実施部会規程第7条第2項の規定に基づき、専門部会に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第3条 専門部会は、学部入試実施部会のもとで、アドミッション・オフィス入試方法について具体的方策を検討するとともに、その実施にあたる。

web資料 基準 4－③－1

国立大学法人お茶の水女子大学入学試験実施委員会規則

(<http://www.ocha.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000029.htm>)

web資料 基準 4－③－2

国立大学法人お茶の水女子大学学部入試実施部会規程

(<http://www.ocha.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000030.htm>)

web資料 基準4－③－3	お茶の水女子大学入試情報サイト（合格者平均点掲載ページ） (http://www.ao.ocha.ac.jp/average.html)
---------------	---

【分析結果とその根拠理由】

学生募集要項等の作成から判定資料の作成まで、入学試験実施委員会の各入試実施部会が全過程を掌握し実施している。合否判定は各部局において、責任の所在や役割分担を明瞭にした上で実施され、入学者選抜の公正さが確保されている。また、入試の集計データを大学ホームページで公表するとともに、個人に対する入試成績開示を行い、透明性を高めている。以上のことから、実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されていると判断される。

観点④： 入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点に係る状況】

入試の企画、広報等を行っている組織として、教育機構内に入試推進室が設置され、各種入試の問題点や改善点を抽出し、入学者受入方針（以下AP）に沿った学生の受入れが行われたかを検証している（資料 基準4－④－A）。

これらの基礎情報などに基づき、入試推進室や各部局等では、入試方法の改善を図る具体的な取組を行っている。例えば、平成20年度入試からA0入試及び高大連携特別選抜を導入することで、APに沿った受入れを実現する入試方法を工夫している。また、平成20年度に面接要領を策定し、APに沿った選抜をより徹底した。

資料 基準4－④－A 学生の受入状況を検証する組織

国立大学法人お茶の水女子大学機構規則（抜粋）

（業務）

第12条 入試推進室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 入学者選抜に関する将来構想計画及び企画立案、実施に関すること。
- 二 その他所掌業務に関し必要なこと。

【分析結果とその根拠理由】

各種入試に関する問題点や改善点の把握、追跡調査やアンケート調査結果の分析等を行い、新たな特別選抜の導入や面接要領を策定している。以上のことから、APに沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていると判断される。

観点⑤： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図ら

れているか。

【観点に係る状況】

入学定員に対する実入学者数の過去3年間の割合は、入学試験実施状況表に示すとおりである（資料 基準4－⑤－A）。学部入試に関しては適正な値となっている。

実入学者数の改善に関する取組みは、入試推進室等で入学者動向を分析するとともに、役員会等で入学者数の管理に関する検討を行っている。

資料 基準4－⑤－A

入学試験実施状況

学部名	平成22年度					平成23年度					平成24年度					3カ年平均				
	入学 定員	志願 者数	入学 者数	志願 倍率	定員 充足率	入学 定員	志願 者数	入学 者数	志願 倍率	定員 充足率	入学 定員	志願 者数	入学 者数	志願 倍率	定員 充足率	入学 定員	志願 者数	入学 者数	志願 倍率	定員 充足率
文教育学部	202	1,100	218	5.45	1.08	202	1,090	216	5.40	1.07	202	1,108	213	5.49	1.05	202	1,099	216	5.44	1.07
人文学科	55	344	61	6.25	1.11	55	300	61	5.45	1.11	55	393	57	7.15	1.04	55	346	60	6.28	1.08
言語文化学科	80	388	87	4.85	1.09	80	409	83	5.11	1.04	80	347	86	4.34	1.08	80	381	85	4.77	1.07
人間社会学科	40	234	43	5.85	1.08	40	249	43	6.23	1.08	40	235	42	5.88	1.05	40	239	43	5.98	1.07
芸術・表現行動学科	27	134	27	4.96	1.00	27	132	29	4.89	1.07	27	133	28	4.93	1.04	27	133	28	4.93	1.04
理学部	125	519	130	4.15	1.04	125	610	133	4.88	1.06	125	574	134	4.59	1.07	125	568	132	4.54	1.06
数学科	20	137	23	6.85	1.15	20	147	20	7.35	1.00	20	138	22	6.90	1.10	20	141	22	7.03	1.08
物理学科	20	85	21	4.25	1.05	20	75	22	3.75	1.10	20	73	22	3.65	1.10	20	78	22	3.88	1.08
化学科	20	83	22	4.15	1.10	20	100	21	5.00	1.05	20	96	23	4.80	1.15	20	93	22	4.65	1.10
生物学科	25	96	25	3.84	1.00	25	127	27	5.08	1.08	25	109	27	4.36	1.08	25	111	26	4.43	1.05
情報科学科	40	118	39	2.95	0.98	40	161	43	4.03	1.08	40	158	40	3.95	1.00	40	146	41	3.64	1.02
生活科学部	125	705	135	5.64	1.08	125	726	135	5.81	1.08	125	657	137	5.26	1.10	125	696	136	5.57	1.09
食物栄養学科	36	250	39	6.94	1.08	36	282	39	7.83	1.08	36	290	39	8.06	1.08	36	274	39	7.61	1.08
人間・環境科学科	24	119	26	4.96	1.08	24	106	26	4.42	1.08	24	108	28	4.50	1.17	24	111	27	4.63	1.11
人間生活学科	65	336	70	5.17	1.08	65	338	70	5.20	1.08	65	259	70	3.98	1.08	65	311	70	4.78	1.08
学部計	452	2,324	483	5.14	1.07	452	2,426	484	5.37	1.07	452	2,339	484	5.17	1.07	452	2,363	484	5.23	1.07

【分析結果とその根拠理由】

入学定員に対する実入学者の充足率は、全体として、入学定員に対して実入学者数が大幅に超える、または大幅に下回る状況にはなっていない。入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られていると判断される。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

大学ホームページや印刷物等を通じてAPを広く公表するとともに、入試方法についても、APに一致した学生を選抜するため、募集単位ごとのきめの細かい受験科目や配点の設定、小論文や面接の重視、A0入試での集団討議や英語講義の実施、面接要領の策定などの工夫を行っている。

【改善を要する点】

入試機会の増加、教員数の減少による労力の増大が問題となっている。出題を含めた入試システムの見直しが必要と思われる。大学入学人口の減少傾向に対する対応も必要である。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<学士課程>

観点①： 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められている（資料 基準5-①-A）。

資料 基準5-①-A

本学ホームページ（トップページ＞教育プログラム＞学士課程カリキュラム・ポリシー）

(http://www.ocha.ac.jp/program/curriculum_policy/undergrad.html)

— 理学部の教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

理学は、自然の成り立ちの原理・法則を探究する学問である。理学部では、人類の英知が蓄積された理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につける。自然との中で展開する人間活動を扱う様々な場面において、多大な貢献が出来る次世代のリーダーあるいは中核となる人材育成のための教育を行う。

学科により、高等学校・中学校教員免許取得ならびに、学芸員資格取得のための科目を設置する。

(1) 数学科

数学の基礎的素養として解析学・幾何学・代数学をバランス良く学び、講義で得た知識を、演習・輪講・数学講究（セミナー）を通して実践的に学ぶことにより、抽象化・一般化・厳密性などの数学的論理思考法が身に付けられるようにカリキュラムは編成されている他、数理逍遥など応用的素養のための科目も用意されている。基礎及び応用としての数学的素養を身につけ論理的に問題を捉え解決する能力を持つ人材育成のための教育を行う。

(2) 物理学科

物理学の基礎から応用に至るまでの幅広い分野の教育・研究を一貫性を持って遂行することにより、物理現象を理論と実験の双方向から直感的かつ論理的に探究する能力の養成を行う。物理学の探究を通じて、様々な場面で出会う問題に対して還元論的かつ多面的なものの見方を習得し、問題解決能力を向上させ、社会の各分野において時代を先導する人材育成のための教育を行う。

(3) 化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学をはじめとする自然科学の諸分野、加えて、工学、医学、薬学などの応用的分野の知識の必須な領域まで広がっている。化学科では、自然科学はもとより、応用科学分野における諸問題、さらには人類が直面する社会的問題をも解決できる、論理的思考力や自然科学の基礎知識および研究能力を体得し、柔軟な思考力と優れた問題解決力を身につけ、社会に対して多大な貢献が出来る人材育成のための教育を行う。

(4) 生物学科

生物学は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を探究する学問であり、周辺領域の医学、薬学、農学、情報学などの学問分野の基盤となり、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼす。生物学科では、多種多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を身につける。自ら考え、問題を提示し解決する能力を有し、豊かな人間社会の構築に貢献できる人材育成のための教育を行う。

(5) 情報科学科

情報科学は、「情報」を対象とした数理科学であると同時に、その知見をコンピュータを介して工学的に応用し、幅広く社会に貢献する学問である。情報科学科では、「計算とは何か」「認識とは何か」といった人間・社会・世界が関わる普遍的な法則性に対する思考力と、変化し続ける現代社会の諸相に柔軟に適応し、問題を解決する能力を併せ持つ人材育成のための教育を行う。

【分析結果とその根拠理由】

当学部および当学部に属する各学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は明確に定められ、大学一般に求められるカリキュラム・ポリシーに適合していると判断される。

観点②： 教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。また、選択履修制度は定着しているか。

【観点に係る状況】

理学部の授業科目は、外国語、教養課程に対応するコア科目（LA 科目）、理学の全般的基礎を担う全学共通科目、専攻科目、教職科目に大別される。全体として教養教育及び自然科学の基礎教育から各学科の専門教育まで、系統的かつ段階的に履修できるような構成になっている。（理学部履修規定第2条、資料 基準5-②-A）

コア科目では、全学共通科目において自然科学に必要な基礎的科目が設けられ、各学科で必修、または履修を強く推奨している。また、複数プログラム選択履修制度では、各学科の主プログラムの中に、その分野に密接に関わる他分野の基礎的科目を全学共通科目の中から配置し、いずれも専門課程の基盤を確実に築けるよう配慮されている。

各学科の専門科目の必修科目と選択科目の割合は、実習科目の多い化学科をのぞき、1：1から2：1程度である。従来、理学部履修規程の他、各科目の履修の要件、順序、時期などが細かく記された各学科の履修規程（理学部授業科目履修案内）が定められており、各学科において、それぞれの分野の学問体系に従って、基礎知識の習得と論理体系が確実に修得できるような科目配置と授業内容が設定されている。（資料 基準5-②-A、基準5-②-B、別添資料 基準5-②-1）

平成23年度入学生より実施された複数プログラム選択履修制度では、各学科の専攻課程の基礎を担う“主プログラム”を必修とし、各専門領域のより高度な内容の科目からなる“強化プログラム”を履修する基幹的な履修体系に加え、専門領域と近接した科目群からなる“学際プログラム”、“副プログラム”を、学生が志向に応じて選択履修できる制度を制定した。すなわち理学部の従前の各学科ごとの専門教育課程を基盤としつつ、境界・融合分野に強い志向を持つ学生に対して、関連した分野の科目群（プログラム）が選択可能なカリキュラム体系を構築した。（資料 基準5-②-A、別添資料 基準5-②-1、基準5-②-2）

複数プログラム選択履修制度における卒業要件は、各学科の主プログラムに加え、各学科の強化プログラムもしくは各学科の指定する学際もしくは副プログラムから最低1つを履修することとしている。なお、それぞれのプログラム群中の科目に、必修・選択科目を設け、履修の柔軟性ととも、必要な能力を確実に養成することを担保している。（資料 基準5-②-A、別添資料 基準5-②-1、基準5-②-2）

授業内容、学習方法、評価基準、履修の要件などに関しては、全学的に管理するシラバスの他、学科ごとの「履修のてびき」等の印刷物、Web などを利用して学生に周知している。（科目ごとのガイドを独自に作成している例もある。）

資料 基準 5－②－A 理学部履修規程（平成 23 年度以降入学者用）

http://www.ocha.ac.jp/campuslife/registration/2012ug_kitei_0622.pdf p.202

国立大学法人お茶の水女子大学理学部履修規程

（趣旨）

第 1 条 国立大学法人お茶の水女子大学理学部の教育課程及び履修方法については、国立大学法人お茶の水女子大学学則、国立大学法人お茶の水女子大学複数プログラム選択履修制度実施規則又はこれに基づく別段の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

（授業科目の区分）

第 2 条 授業科目は、コア科目、専門教育科目、専攻科目、関連科目、全学共通科目、教職に関する科目及び外国人留学生特別科目とする。

- 2 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語及び朝鮮語）及びスポーツ健康とする。
- 3 専門教育科目は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムを構成する科目とする。
- 4 専攻科目は、各学科において設置する科目とする。
- 5 関連科目は、各学科の基礎となる科目又はきわめて関連の深い科目であって選択として指定する。
- 6 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。
- 7 教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）に定める教職に関する科目を置く。
- 8 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。

（他学部の授業科目の履修）

第 3 条 文教育学部及び生活科学部の授業科目は、これを履修することができる。

（単位の計算方法）

第 4 条 各授業科目の単位数の計算方法は、1 単位が 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
 - 二 演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
 - 三 実験及び実習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、教育実習については、別に定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、特別研究又はこれに準ずる授業科目については、別に定める。

（卒業要件）

第 5 条 卒業するためには、別表第 1 に定めるところにより、124 単位以上を修得しなければならない。

- 2 各学科において履修すべき授業科目及び単位数は、別表第 3 から別表第 7 までに定めるところとする。
- 3 関連科目の授業科目及び単位数は、別表第 8 に定めるところとする。
- 4 全学共通科目の授業科目及び単位数は、別表第 9 に定めるところとする。

- 5 教職に関する科目の授業科目及び単位数は、別表第 10 に定めるとおりとする。また、単位の取扱いについては、別表第 1 備考 9 のとおりとする。
- 6 外国人留学生特別科目の授業科目及び単位数は、別表第 11 に定めるとおりとする。また、単位の取扱いについては、別表第 1 備考 10 のとおりとする。

(履修手続)

- 第 6 条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに指定する方法により申請し、担当教員の許可を得なければならない。
- 2 学生が前項により履修申請した授業科目の履修を取消すには、所定の期日までに指定する方法により履修取消手続を行い、担当教員の許可を得なければならない。
 - 3 学生が授業科目について聴講のみを希望する場合は、担当教員の許可を得なければならない。

(単位の授与)

- 第 7 条 授業科目を履修した者については、試験(論文、報告等を含む。以下同じ。)により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。
- 2 試験は、原則として学年末又は学期末に行うこととする。ただし、病気その他正当な理由で試験を受けることができなかった者は、別に定める手続きにより追試験を受けることができる。

(成績の評価)

- 第 8 条 成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。
- 2 成績の評価は、「S」(基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている)、「A」(基本的な目標を十分に達成している)、「B」(基本的な目標を達成している)、「C」(基本的な目標を最低限度達成している)、「D」(基本的な目標を達成していない。再履修が必要である)の 5 種類の評語をもって表し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。
 - 3 前項の成績の評価又は科目の原成績(素点)に基づき、成績の数値平均 Grade Point Average(以下「GPA」という。)を算出するものとする。GPA に関し必要な事項は別に定める。

～ (以下略) ～

別表第1(第5条関係)

学科別 科目区分	必修及び選択必修の科目・単位									自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数
	コア科目					専門教育科目（必修プログラム）				コア科目	専攻科目	他学科の専攻科目	関連科目	他学部の科目	全学共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
	文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム									
数 学 科	30					60	20			14								124
物 理 学 科	30					60	20			14								124
化 学 科	30					60	20			14								124
生 物 学 科	30					60	20			14								124
情報科学科	30					60	20			14								124

備考 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。

2 外国語は、一の外国語について8単位を必修とする。コア科目の必修単位のうち、外国語での単位は12単位までとする。

3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。

4 主プログラムは、所属学科から選択すること。

5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。

6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。

7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。

8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。

9 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、6単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。

10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、16単位までをコア科目として取り扱う。

資料 基準5-②-B: 理学部履修規程(平成22年度以前入学者用)

国立大学法人お茶の水女子大学理学部履修規程

(趣旨)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学理学部の教育課程及び履修方法については、国立大学法人お茶の水女子大学学則又はこれに基づく別段の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、専攻科目、関連科目、自由科目、コア科目、全学共通科目、教職に関する科目及び外国人留学生特別科目とする。

2 専攻科目は、各学科ごとに必修又は選択として指定する

3 関連科目は、各学科の基礎となる科目又はきわめて関連の深い科目であって必修又は選択として指定する。

4 自由科目は、理学部以外の学部で開設している科目のうちから選択する。

5 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、基礎ゼミ、総合科目、情報、外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語及び朝鮮語)及びスポーツ健康とする。

6 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。

7 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める教

職に関する科目を置く。

- 8 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。

(単位の計算方法)

第3条 各授業科目の単位数の計算方法は、1 単位が 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 三 実験及び実習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、教育実習については、別に定める。

- 2 前項の規定にかかわらず、特別研究又はこれに準ずる授業科目については、別に定める。

(卒業要件)

第4条 卒業するためには、別表第 1 に定めるところにより、124 単位以上を修得しなければならない。

- 2 各学科において履修すべき授業科目及び単位数は、別表第 2 から別表第 7 までに定めるところとする。
- 3 全学共通科目の授業科目及び単位数は、別表第 8 に定めるところとする。
- 4 教職に関する授業科目及び単位数は、別表第 9 に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第 1 備考 5 のとおりとする。
- 5 外国人留学生特別科目の授業科目及び単位数は、別表第 10 に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第 1 備考 6 のとおりとする。

(履修手続)

第5条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに指定する方法により申請し、担当教員の許可を得なければならない。

- 2 学生が授業科目について聴講のみを希望する場合は、担当教員の許可を得なければならない。

(単位の授与)

第6条 授業科目を履修した者について、試験等により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。

- 2 試験は、学年末又は学期末に行うこととする。ただし、病気その他正当な理由で試験を受けることができなかった者は、別に定める手続きにより追試験を受けることができる。

(成績の評価)

第7条 成績の評価は、原則として試験(論文、報告等を含む。)、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。

- 2 成績の評価は、「S」(基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている)、「A」(基本的な目標を十分に達成している)、「B」(基本的な目標を達成している)、「C」(基本的な目標を最低限度達成している)、「D」(基本的な目標を達成していない。再履修が必要である)の 5 種類の評語をもって表し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。

～ (以下略) ～

別表第1 (第4条関係)

学科別 科目区		必修及び選択必修の科目・単位										自由に選択して履修する科目・単位													卒業に必要な履修単位数
		専攻科目		関連科目	コア科目							専攻科目	関連科目	自由科目	コア科目							教職に関する科目			
		必修	選択	選択	文理融合リベラルアーツ	基礎講義	基礎ゼミ	総合科目	情報	外国語	スポーツ健康	選択	選択		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	基礎ゼミ	総合科目	情報	外国語	スポーツ健康		全学共通科目		
数学科	44	34	0				30										16							124	
物理学科	54	22	0				30										18							124	
化学科	66	10	0				30										18							124	
生物学科	36	34	0				32										22							124	
情報科学科	42	36	0				30										16							124	

備考1 情報処理演習2単位は、必修とする。

2 安全管理概論2単位は、物理学科、化学科、生物学科は必修とする。

3 外国語は、一の外国語について8単位を必修とする。

コア科目の必修単位のうち、外国語での単位は12単位までとする。

4 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。

5 教職に関する科目(教職概論及び教育実習を除く。)の単位については、6単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。

6 外国人留学生特別科目(日本語演習及び日本事情演習)の単位については、16単位までをコア科目として取り扱う。

別添資料 基準5-②-1 理学部授業科目履修案内(平成24年度入学者用)

別添資料 基準5-②-2 選択履修制度関係(各学科が指定する学際・副プログラム)および各プログラムを構成する科目群(2012年履修ガイド pp.107-131)

【分析結果とその根拠理由】

本学部教育の目的に照らし、豊かな教養と理学の基礎力養成のための科目、各分野における専門性の基礎を築くための専攻課程の科目群も、各分野の学問体系や特質に合わせ、適正に設計され配置されている。4年次の卒業研究により、学部専門教育の実践的定着と展開力を養うとともに、大学院課程への準備と修学意欲の啓発を行っている。また、多様な科目設定や、柔軟な履修制度の構築により、分野を越えた視野を養い、現代科学の多様な新展開にも対応する教育システムが構築されている。以上のことから、教育課程は体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっていると判断できる。

複数プログラム選択履修制施行後も、各学科の専攻課程の教育は主、強化プログラムの履修で担保されている。一方、増加しつつある境界・融合分野への志向を持つ学生に対応して、学生の在籍学科に関連する複数のプログラムの選択を用意している。ただし選択履修制そのものに関する評価は、本制度での卒業生がまだ出ていない現状では、判断できない。

観点③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。特に学生の満足度や不満を把握しているか。

【観点に係る状況】

理系科目における分野間相互の基礎学力補完のためには、高校で未履修の理科科目の補完授業（「生物学サブリメント」「物理学サブリメント」）を開講している（資料 基準5-③-A：シラバス例）。本学学士課程においては、他学科・他学部及び大学院博士前期課程の一部の科目の履修も可能であり（前掲資料 基準5-②-A（p.24）、基準5-②-B（p.26）、資料 基準5-③-B：学部単位互換制度、別添資料 基準5-③-1：4年次での大学院博士前期課程授業聴講制度）、さらに国内他大学との単位互換制度による単位互換が認められている（資料 基準5-③-B：学部単位互換制度、別添資料 基準5-③-2：学部学生交流協定に基づく単位互換制度、資料 基準5-③-C：他大学との単位互換実施状況）。また、平成21年度より、生命情報学等の副コースを設置し、学際的分野の基礎から専門を効率よく学べるカリキュラム群を提供している。卒業研究を学生の専攻分野に関連する他学科の教員の元で行うことの出来るシステム（卒研シフト）も構築している（資料 基準5-③-D）。

資格取得のニーズに関しては、教育職員免許取得課程の他にいくつかの資格取得のための課程を有している（資料 基準5-③-E）。また、学外研究機関での研究を体験したい学生のために独立法人研究機関でのインターンシップを体験させ単位認定している。平成21年度に文部科学省委託事業である理数学生応援プロジェクトに採択された事業「理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育」での実践例として、平成21年度から平成23年度の間、英国ハル大学理系語学研修に14名、独ブッパタール大学環境科学サマースクールに4名、SPRING-8、物質・材料研究機構および産業技術総合研究所に16名のインターンシップ生を派遣し、また学生自らの研究活動として第1回サイエンス・インカレにおいて3件発表し、JAXA 学生公募実験コンテストにおいて1件等が採択された（別添資料 基準5-③-3）。

科目を担当する教員は、当該科目の指導に相応しい研究を行っている（Web資料 基準5-③-4）。研究活動とその成果の発表に学生を積極的に参加させることで、学術動向を反映した教育の導入が図られている（資料 基準5-③-F）。

更に、文理融合リベラルアーツ科目では、社会的注目度の高い「生活世界の安全保障」、「生命と環境」等の系列を設定し、社会の動向や要請を反映した教育への配慮がなされている（Web 資料 基準5-③-5、6）。学生には、各授業評価のほか、入学時や卒業時のアンケート調査により満足度と不満点を調査・分析している。（資料 基準5-③-G）

資料 基準5－③－A 理科サプリメントシラバス例 (大学ホームページ「お茶の水女子大学シラバス」)

http://tw.ao.ocha.ac.jp/syllabus/index_search.cfm?jugyo=12N0052

 お茶の水女子大学 シラバス Ochanomizu University Syllabus							
年度	科目別検索	学科別検索	教員別検索	プログラム別検索	資格別検索	時間割検索	全文検索
物理学サプリメント [12N0052]							
科目名	物理学サプリメント [12N0052] Supplementary Class of Physics						
科目区分・科目種	全学共通科目						
クラス	全学科						
単位数	2.0単位						
担当教員・所属	村井 利行 [附属高等学校]						
主担当学科	化学科						
連絡場所							
履修年次	1 年						
学期	前期						
曜日・時間	金曜 7.0～8.0						
教室	①附属高校3階物理室						
授業の形態							
講義,実験							
教科書・参考文献							
特になし							
評価方法・評価割合							
小論文(レポート)出席							
主題と目標							
高校で物理を学習してこなかった方で、今後の勉学に物理が必要であったり、興味関心があるという方のための授業です。高校での物理の学習が不十分だった方も含みます。物理学的な考え方、現象をモデル化し数学的に表現する方法など、物理学の基本的な手法に慣れることを目標としていますが、理論面の講義だけでなく、演習実験も多く取り入れて“実感できる物理”を目指します。							

資料 基準5－③－B 学部単位互換制度に関する規定

国立大学法人お茶の水女子大学学則（抜粋）

（他大学等における授業科目の履修及び大学以外の教育施設等における学修）

第17条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学(以下「他大学等」という。)との協議に基づき、学生が当該他大学等において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。

4 前3項に定めるもののほか、修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

国立大学法人文教育学部履修規程（抜粋）

（他学部の授業科目の履修）

第4条 理学部及び生活科学部の授業科目は、これを履修することができる。

国立大学法人理学部履修規程（抜粋）

（他学部の授業科目の履修）

第3条 文教育学部及び生活科学部の授業科目は、これを履修することができる。

国立大学法人生活科学部履修規程（抜粋）

（他学部の授業科目の履修）

第3条 文教育学部及び理学部の授業科目は、これを履修することができる。

資料 基準5－③－C 他大学との単位互換実施状況

区 分	平成22年度			平成23年度		
	互 換 先 大学等名	履 修 者数	単 位 履修者数	互 換 先 大学等名	履 修 者数	単 位 履修者数
文教育学部	東京外国語大学	3	2			
	東京藝術大学	5	3			
	東京工業大学	4	0			
理学部	東京工業大学	8	7	東京工業大学	8	5
生活科学部				東京工業大学	2	0

資料 基準5－③－D 卒研シフト制度の基本方針

「他学科の教員の指導による卒業研究(2010年度卒研生用)」 2009年10月7日

＜本制度の基本的な枠組み＞

0. （目的） この制度は、「理系学部・大学院分野横断型教育システム分野」（理学部及び理系大学院の教育改革）の一環である。「分野横断型教育システム」の目的については以下の通り：従来の研究分野から飛び出して複合的分野・境界領域へ進出する意欲ある学生に対して、学部・学科の枠を越えた進級・進学プログラムを提供し、従来型の教育体制より効率的に新興分野への人材育成を図ることを目的とする。そのため、学部教育においては、学部・学科を横断して履修できる制度を整備し、大学院においては、複合的分野・境界領域を目指し分野を転向して進学する学生を積極的に受け入れる体制を構築する。
1. （対象となる学生・教員の範囲） この方式は、生活科学部人間・環境科学科と、理学部数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科所属の学生、教員に適用する。
2. （対象となる授業科目） 卒業研究とは、生活科学部人間・環境科学科においては「卒業論文10単位」、理学部数学科「数学講究4単位」、物理学科「特別研究12単位」、化学科「特別研究12単位」、生物

学科「特別研究14単位」、情報科学科「特別研究6単位」を指す。

卒業研究は、学生の所属学科の卒業研究に相当する科目の履修とする。他学科の学生の卒業研究を指導する教員は、学科によって卒業研究の単位数が違うことを十分に注意すること。

3. (単位認定、評価) 卒業研究の単位認定、評価は、学生の所属学科で行う。

従って、卒業研究の内容が、

(i) 学生の所属学科の分野の内容をある程度含んでいるか？(学生の所属学科の分野との境界領域的なものを想定)

(ii) 学生の学部でのそれまでの各学科における履修内容が卒業研究で生かされるか？

については十分に留意すること。

また、卒業論文(あるいはそれに相当するもの)や発表会に関しては、原則として、学生の所属する学科と同等のものを課すものとする。但し、実質的な観点から、発表会あるいはこれに類するものは、教員の担当する学科でも行うことが望ましい。

卒業研究の単位認定、評価にあたり、他学科の指導教員は、指導した学生の所見を学生の所属学科に伝える。

4. (指導教員決定のプロセス) 他学科の教員の指導により卒業研究を行う場合も、指導教員決定(研究室配属決定)の方法と時期については、学生所属学科の研究室配属決定方法と時期に準ずるものとする。

5. (教員の卒業研究担当可の手続き) 他学科の教員の指導により卒業研究を行う場合、当該教員について、学生所属学科の卒業研究科目を担当することが可能であることを学生所属の学部教授会で承認を得るものとする。

<運営上の留意点、スケジュール等>

1. 他学科の教員の指導による卒業研究の希望申し出が学生からあった場合には、学生の所属学科と受入教員および受入教員所属学科との間で十分に連絡を取ること。特に、

- ・ 学生所属学科に、当該学生との連絡担当教員をおく。
- ・ 卒業研究に相当する科目の単位数が当該学生の所属学科と指導する教員の学科で大幅に異なる場合には、指導方法などについてあらかじめ打ち合わせをしておく。
- ・ 学生が大学院へ進学し、卒業研究と同じ指導教員の下で特別研究を行う場合、学生の所属学科に対応するコース(専攻)で受験し、進学することを可とするかどうか(すなわち、当該学生は、試験を受けたコースに所属したままでいいかどうか)については、十分に打ち合わせを行う。

2. 10月中に「卒業研究 他学科学生受け入れ可能教員リスト。各学科における他学科の教員による卒業研究を受ける学生数の上限等の条件」について、昨年度版の改定を行う。この情報の学生への周知方法時期等については、学生所属学科の研究室配属決定方法と時期に応じ、各学科に任せる。

資料 基準5－③－E 教員免許と各種資格について

学部	学科等	教育職員免許状の種類	教科
文教育学部	人文学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民
	言語文化学科	中学校教諭一種免許状	
	日本語・日本文学履修コース	高等学校教諭一種免許状	国語
	中国語圏言語文化履修コース		中国語
	英語圏言語文化履修コース		英語
	仏語圏言語文化履修コース		フランス語
	人間社会学科	中学校教諭一種免許状	社会
	社会コース	高等学校教諭一種免許状	公民
	小学校・幼稚園コース	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状	
理学部	芸術・表現行動学科	中学校教諭一種免許状	
	舞踊教育学履修コース	高等学校教諭一種免許状	保健体育
	音楽表現履修コース		音楽
	数学科	中学校教諭一種免許状	数学
	物理学科	高等学校教諭一種免許状	理科
	化学科		
生活科学部	生物学科		
	情報科学科		
	数学コース		数学
	情報コース	高等学校教諭一種免許状	情報
生活科学部	人間生活学科	中学校教諭一種免許状	
	家庭コース	高等学校教諭一種免許状	家庭
	食物栄養学科	栄養教諭一種免許状	—

※生活科学部人間生活学科の学生で小学校・幼稚園教諭一種免許状を取得希望する者は、文教育学部の小学校・幼稚園コースを履修することにより取得可能です。

※生活科学部食物栄養学科及び人間・環境科学科の学生で、中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得希望の者は、人間生活学科家庭コースを履修することにより取得可能です。

■ 資格取得

学部	学科	学芸員（博物館）	社会教育主事	社会調査士	日本語教育 基礎コース （免許制度ではない）	栄養士 食品衛生管理者 食品衛生監視員	受験資格	
文教育学部	人文学科	●	●	●	●			
	言語文化学科	●	●	●	●			
	人間社会学科	●	●	●	●			
	芸術・表現行動学科	●	●	●	●			
理学部	数学科	●	●	●	●			
	物理学科	●	●	●	●			
	化学科	●	●	●	●			
	生物学科	●	●	●	●			
	情報科学科	●	●	●	●			
生活科学部	食物栄養学科	●	●	●	●	●	●	
	人間・環境科学科	●	●	●	●			●
	人間生活学科	●	●	●	●			

※●印のある学科で資格を取得することができます。

※二級建築士受験資格に関しては、建築士法改正のため、「取得見込み」です。詳細については、お問い合わせください。

※上記のほか、「消費生活アドバイザー」の資格を得るためのキャリア支援プログラム（生活科学部）などがあります。

資料 基準5－③－F 授業科目と担当教員の研究の例

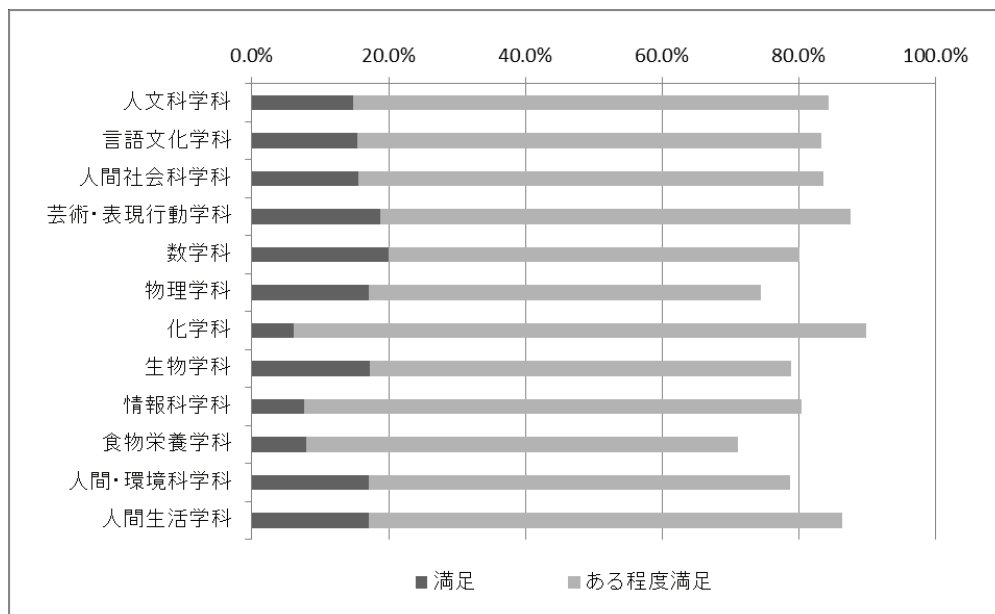
所属学科・教員名	授業科目	研究論文
数学科・古谷希世子	関数解析学、偏微分方程式論	K.Furuya, Trotter-Kato: "Theorem for weak convergence on Hilbert space cases", Adv. Math. Sci. Appl. 20, No. 1, pp.143-152 (2010).
数学科・堀江 充子	ガロア理論、代数学 III	K.Horie and M. Horie; "The narrow class groups of the $\mathbb{Z}_{17}$ - and $\mathbb{Z}_{19}$ -extensions over the rational field", Abh. Math. Sem. Univ. Hamburg 80, 47-57 (2010).
物理学科・奥村 剛	ソフトマター物理	Ayako ERI and Ko OKUMURA: "Viscous drag friction acting on a fluid drop confined in between two plates", Soft Matter, 7, 5648 (2011).

物理学科・曹 基哲	素粒子物理学	G. C. Cho, K. Hagiwara, Y. Matsumoto, D. Nomura: "The MSSM confronts the precision electroweak data and the muon $g-2$ ", JHEP 1111 068 (2011).
化学科・鷹野景子	計算化学、物理化学 I 基礎科学 B, 基本化学実験 III, 専門化学実験 I, 化学 演習 I, II, 特別研究 I, II	M. Otsuka, H. Mori, H. Kikuchi, and K. Takano: Density Functional Theory Calculations of Iodine Cluster Anions: Structures, Chemical Bonding Nature, and Vibrational Spectra. Comput. Theor. Chem., 973, 69-75 (2011).
化学科・山田眞二	有機化学 III、有機化学 IV、基礎科学 A, 専門化学 実験 II、化学演習 I, II, 特別研究 I, II	S. Yamada and Y. Tokugawa: "Cation- π Controlled Solid-State Photodimerization of 4-Azachalcones", J. Am. Chem. Soc. 131, 2098-2099 (2009).
生物学科・加藤美砂子	代謝生理学、植物生理工 学、代謝生物学実習、生物 学実習 II、基礎生物学 A、特別研究 I、II、生物 学演習 I、II	R. Niitsu, M. Kanazashi, I. Matsuwaki, Y. Ikegami, T. Tanoi, M. Kawachi, M.M. Watanabe and M. Kato: "Changes in the hydrocarbon-synthesizing activity during growth of Botryococcus braunii B70 ", Bioresource. Technol., 109, 297-299 (2012).
生物学科・最上善広	生物物理学バイオメカニク ス、動物生理学、LA 生命 と色・音・香、LA 基礎生 命科学、生物学実習 I、動 物生理学実習、動物生理学 臨海実習	A. Kage, E. Asato, Y. Chiba, Y. Wada, Y. Katsu-Kimura, A. Kubota, S. Sawai, M. Niihori, S.A. Baba and Y. Mogami: "Gravity-Dependent Changes in Bioconvection of Tetrahymena and Chlamydomonas during Parabolic Flight: Increases in Wave Number Induced by Pre- and Post-Parabola Hypergravity", Zool. Sci., 28, 206-214 (2011).
情報科学科・伊藤貴之	コンピュータが創る色と 音、情報処理学、コンピ ュータビジョン、マルチメ ディア、コンピュータグラフ ィックス	A. Hayashi, T. Itoh, M. Matsubara: Colorscore - Visualization and Condensation of Structure of Classical Music, in Knowledge Visualization Currents: from Text to Art to Culture, Springer Edit Volume, ISBN-978-1-4471-4302-4 (2012).
情報科学科・小口正人	情報科学、コンピュータネ ットワーク I、コンピ ュータネットワーク II	Reika Higa, Kosuke Matsubara, Takao Okamawari, Saneyasu Yamaguchi, and Masato Oguchi: "Analytical System Tools for iSCSI Remote Storage Access and Performance Improvement by Optimization with the Tools," In Proc. the 3rd IEEE International Symposium on Advanced Networks and Telecommunication Systems (ANTS2009), New Delhi, India, December (2009).

資料 基準5－③－G 平成22年度お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査

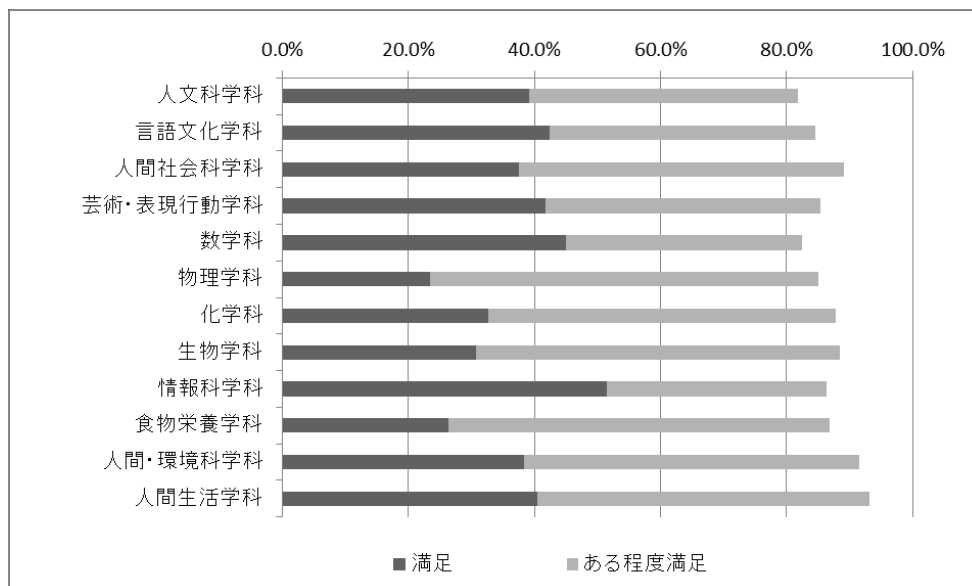
http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50744/10/2_7-23.pdf

図表2 - 20 全体的な教員指導の満足度（教養・共通教育（コア、LA など））



注) 「ある程度不満」および「不満」、無回答の割合はグラフから省略した。

図表2 - 21 全体的な教員指導の満足度（専門教育）



注) 「ある程度不満」および「不満」、無回答の割合はグラフから省略した。

別添資料 基準5－③－1

4年次での大学院博士前期課程授業聴講制度（「2012 履修ガイド」p. 24）

別添資料 基準5－③－2

学部学生交流協定に基づく単位互換制度（「2012 履修ガイド」p. 28）

別添資料 基準 5-③-3	理数学生応援プロジェクト 平成 23 年度報告書 (p. 13)
web 資料 基準 5-③-4	研究者情報(大学ホームページ「お茶の水女子大学研究者情報」) http://researchers.ao.ocha.ac.jp/
web 資料 基準 5-③-5	21 世紀型文理融合リベラルアーツのホームページ http://www.ocha.ac.jp/la/home/index.htm
web 資料 基準 5-③-6	文理融合リベラルアーツ科目 (シラバス) http://tw.ao.ocha.ac.jp/syllabus/pdf/コア科目.pdf

【分析結果とその根拠理由】

学生個々の習熟度に配慮した理系補完教育、授業履修の柔軟性、インターンシップや理系語学研修の単位認定などにより、授業科目や教育内容の多様化をはかっている。学習意欲を高めるための、プロジェクトベースの様々な学習や活動機会を提供することにより自発的な学習の芽を育てている。教員は個々の研究内容を反映した授業を行うことに加え、学術動向の情報を伝えている。また、社会的要請の高い系列科目群を設定している。さらに、学生アンケート調査に基づいて、学生の満足度の低い点の改善に取り組んでいる。以上のことから、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮していると判断される。

観点④： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

【観点に係る状況】

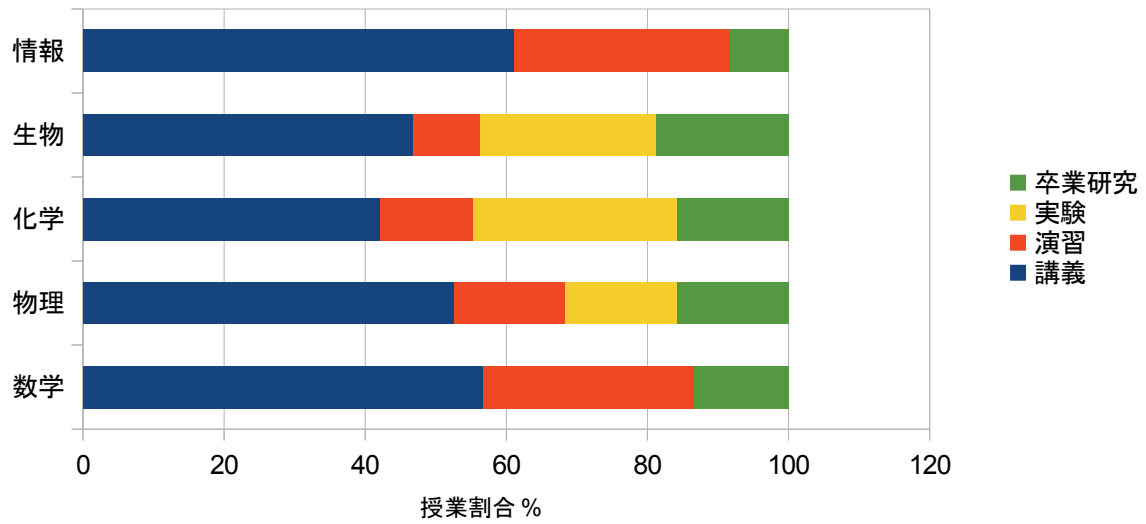
平成 22 年度以前は、各学科において、それぞれの分野の学問体系や特質に合わせ、基礎知識の習得と論理体系が確実に修得できるような科目配置と授業内容が設定され、科目群のシステム化（各学科内の分野の系統化や基礎的な内容から専門性の高い内容に至る科目の年次進行等）や、必修、選択の割合、授業の形態（講義、演習、実習など）が十分に設計された上での配置となっている。理学部履修規程の他、各科目の履修の要件、順序、時期などが細かく記された各学科の履修規程（理学部授業科目履修案内）が定められている。また平成 23 年度以降の複数プログラム選択履修制における主及び強化プログラムにおいても、理学部では講義を中心としながら、理解を深めるための実験・実習・演習を各学問分野のニーズに応じたバランスで課している（資料 基準 5-④-A）。

各授業を担当する教員は、当該科目の指導に相応しい研究経歴を持ち（前掲 Web 資料 基準 5-③-5 (p. 36)）各専門分野の知識に基づき、学生の理解を深めるのに適した教育プランと学習指導方法を実施している（前掲別添資料 基準 5-②-2 (p. 28)）。さらに、学習効果を高める取組みとして TA が活用され、特に演習、実験・実習でその効果が上がっている（資料 基準 5-④-B：TA 計画一覧平成 23 年 3 月）。

資料 基準5－④－A

学生便覧 平成24年度 履修ガイド, pp. 205-206 主プログラムから抜粋編集

教育単位別授業形態



資料 基準5-④-B TA計画一覧 平成23年3月(黄色の部分は理数応援プロジェクトより雇用)

平成23年度 ティーチング・アシスタント実施計画一覧(学部の科目)

学科等	科目担当者氏名	連絡教員	授業科目名	期間	単位	理学部		
						総時間数	(1週当たり)備考	学科順位
数学	古谷 希世子		微分積分学演習Ⅰ	前期	2	28	(2.0)	3
数学	真島 秀行		関数論演習	前期	2	28	(2.0)	3
物理	小林 功佳		計算物理学講義・演習	前期	4	56	(4.0)	1
物理	梅原 利宏		基礎物理学実験	後期	2	56	(4.0)	4
物理	浜谷望、今井正幸、外館良衛、梅原利宏		物理学実験	通年	4	112	(4.0)	5
物理	森川 雅博		力学演習	前期	2	28	(2.0)	7
物理	北島 佐知子		電磁気学	後期	2	28	(2.0)	8
物理	北島 佐知子		物理数学	前期	2	28	(2.0)	9
物理	番 雅司		量子力学演習	後期	2	28	(2.0)	10
物理	大塚 隆巧	森川 雅博	統計力学演習	前期	2	28	(2.0)	11
化学	矢島 知子、益田 祐一、相川 京子		基本化学実験Ⅰ	前期	2	56	(4.0)	3
化学	近藤 敏啓、森 義仁、益田 祐一		基本化学実験Ⅱ	前期	2	56	(4.0)	4
化学	今野 美智子、鷹野 景子、小川 温子		基本化学実験Ⅲ	後期	2	56	(4.0)	5
化学	矢島 知子、山田 眞二、相川 京子		基本化学実験Ⅳ	後期	2	56	(4.0)	6
化学	森(義)、近藤、小川、相川、今野、鷹野		専門化学実験Ⅰ	前期	6	140	(10.0)	7
化学	益田祐一、三宅亮介、山田眞二、矢島知子、棚谷綾		専門化学実験Ⅱ	後期	4	112	(8.0)	8
化学	化学全教員		化学演習Ⅱ	後期	2	28	(2.0)	9
化学	化学全教員		化学演習Ⅰ	前期	2	14	(1.0)	10
化学	鷹野 景子、森 寛敏		計算化学	後期	2	28	(2.0)	11
生物	生物学科全教員		生物学実習Ⅰ	後期	2	76	(4.0)	1
生物	生物学科全教員		生物学実習Ⅱ	前期	2	76	(4.0)	2
生物	作田 正明		植物生理学実習	前期集中	1	28	集中	7
生物	千葉 和義		発生生物学実習	前期集中	2	42	集中	8
生物	松浦 悦子		分子遺伝学実習	後期集中	1	28	集中	9
生物	近藤 るみ		基礎遺伝学実習	後期集中	2	28	集中	10
生物	最上 善広		動物生理学実習	前期集中	1	45	集中	11
生物	宮本 泰則		細胞生物学実習	後期集中	1	28	集中	12
生物	小林 哲幸		細胞生化学実習	後期集中	1	28	集中	13
生物	清本 正人		動物系統学臨海実習	前期集中	1	28	集中	14
生物	加藤 美砂子		代謝生物学実習	後期集中	1	38	集中	15
生物	眞田 智		植物形態学実習	前期	1	30	(2.0)	16
生物	眞田 智		植物学野外実習	前期集中	1	28	集中	17
生物	最上 善広		動物生理学臨海実習	前期集中	1	20	30時間×1週	18
生物	清本 正人		発生生物学臨海実習	後期集中	1	24	集中	19
生物	眞田 智		植物系統学臨海実習	前期集中	1	30	集中	20
情報科学	小林 一郎		プログラミング実習	後期	2	56	(4.0)	3
情報科学	小林 一郎		プログラミング実習	後期	2	56	(4.0)	4
情報科学	小林 一郎		プログラミング実習	後期	2	56	(4.0)	5
情報科学	小林 一郎		プログラミング実習	後期	2	56	(4.0)	6
情報科学	渡辺 知恵美		システムプログラミング実習	後期	4	56	(4.0)	7
情報科学	渡辺 知恵美		システムプログラミング実習	後期	4	56	(4.0)	8
情報科学	推尾 一郎		マルチメディアプログラミング実習-①	前期	2	56	(4.0)	9
情報科学	推尾 一郎		マルチメディアプログラミング実習-②	前期	2	56	(4.0)	10
情報科学	齋藤 直子	吉田 裕亮	微分積分学演習Ⅰ	前期	2	28	(2.0)	11
情報科学	鈴木 桜子	吉田 裕亮	微分積分学演習Ⅰ	前期	2	28	(2.0)	12
情報科学	齋藤 直子	吉田 裕亮	微分積分学演習Ⅱ(その1)	後期	2	28	(2.0)	13
情報科学	非常勤講師	吉田 裕亮	微分積分学演習Ⅱ(その2)	後期	2	28	(2.0)	14
情報科学	浅本 紀子		計算機代数演習	後期	2	28	(2.0)	15
情報科学	後藤 麻依	萩田 真理子	微分積分学演習Ⅲ	前期	2	28	(2.0)	16
情報科学	非常勤講師	河村 哲也	数値計算実習(その1)	前期	2	28	(2.0)	17
情報科学	非常勤講師	河村 哲也	数値計算実習(その2)	前期	2	28	(2.0)	18
情報科学	小口 正人		コンピュータネットワークⅡ	後期	2	28	(2.0)	19
情報科学	瀬々 潤		コンピュータシステム序論	後期	2	30	(2.0)	20
情報科学	戸次 大介		数理基礎論	前期	2	28	(2.0)	21
情報科学	萩田 真理子		グラフ理論	前期	2	28	(2.0)	22
情報科学	萩田 真理子		暗号と符号	前期	2	28	(2.0)	23
情報科学	浅井 健一		関数型言語-①	前期	2	28	(2.0)	24
情報科学	萩田 真理子		微分積分学Ⅲ	前期	2	28	(2.0)	25
情報科学	浅井 健一		コンパイル構成論	後期	2	28	(2.0)	26
情報科学	小林 一郎		人工知能論	後期	2	28	(2.0)	27
情報科学	浅井 健一		関数型言語-②	前期	2	28	(2.0)	28

【分析結果とその根拠理由】

講義・演習・実験・実習等の科目の組み合わせとバランスは、各分野の教育目的、分野の特性に応じて編成されている。また科目内容に応じて、TA の配置に加え少人数教育などにより学習効果の向上と指導の効率

化を図る一方、文部科学省支援事業により国際的活動や国内の科学分野の研究所インターンシップの機会を提供するなど、学生自らの研究活動の支援が成果をあげており、多様な学生に配慮した教育が行われている。以上より、教育の目標に照らして授業形態の組み合わせ・バランスは適切であり、それぞれの学習内容に適切な工夫がなされていると判断される。

観点⑤： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点到係る状況】

履修登録の上限の目安を年間 50 単位程度とし、「履修ガイド」に記載され、合わせて単位制の趣旨が周知されている。また、成績評価基準もシラバスに明記されている。新入生に対しては、4 月上旬に新入生セミナーで『履修ガイド』と『履修の手引き』をもとに学科・講座別に各学年で履修すべき科目について説明し、モデル時間割を示している。同様のオリエンテーションは学科ベースでも行われている。学部カリキュラムの集大成として位置づけられる卒業研究（特別研究）においては、すべての学科で、卒業論文、発表を課すとともに、学科担当全教員により評価を行っている。また、情報科学科では、3 年末に情報科学集中演習により、これまで履修してきた全科目の総復習を行い、卒業試験に準じた卒業生の学力水準保証の機会としている。理学部の専門課程の授業の多くが 20 人程度以下で行われ、また、卒業研究では、1 教員あたり 1－3 人程度の学生が配属されており、マンツーマンに近い形で、自主的な学習意欲の触発と、単位の実質化が行われている。教育課程改革の中で、授業の到達目標の明示、授業科目の到達目標水準による分類・整理（カラーコード）、必要な予復習の指示の徹底、厳格な成績評価などに包括的に取り組み、規定の授業期間の確保とともに単位の実質化を進めている（前掲資料 基準 5－②－B：理学部履修規程（p.26））。さらに、学生が自主的な学習を行う場（図書館のスタディスペース、情報基盤センター自習室等）を設け、授業時間外の支援環境を構築している。（資料 基準 5－⑤－A）

資料 基準5-⑤-A 本学学生支援センターのホームページ
http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/facilities/index.html

奨学金制度・授業料免除	各種証明書	学生相談	施設・学習環境	課外活動	くらしの支援
-------------	-------	------	---------	------	--------

Home > 施設・学習環境

施設・学習環境

学習環境のための施設

- 図書館
- 情報基盤センター (ITCenter)
- グローバル教育センター
- パソコン活用室

課外活動施設

- 学生会館
- テニスコートの利用について

野外教育施設

- 志賀高原体育運動場
- 館山野外教育施設
- 八王子セミナーハウス
- 草津セミナーハウス

施設・学習環境

文教の府として
多くの偉人を育んだ学びの場。

学びの場と支援

日々学ぶキャンパスは教育研究施設や文化施設、住宅地を中心に形成される「文教地区」に位置しています。現在の敷地は関東大震災復興の際に、当時御茶ノ水から移転した場所で、女子学生の学びの環境として安心できるものです。大学関連施設をはじめ附属幼稚園や各附属学校を抱く広大なキャンパスは豊かな緑に包まれ、国の登録有形文化財に指定されている正門から大学本館へ向かうイチョウ並木をシンボルに、四季折々のたくさんの樹木と草花が植えられています。

学習研究のための施設

図書館

教育・研究機能を支える総合図書館として、学習図書、研究図書のほか、視覚等資料や電子ジャーナルなども揃っています。

情報基盤センター (ITCenter)

学内基幹ネットワークの維持・管理のほか、学生に対する情報処理教育の場や機器を提供しています。

グローバル教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導を行っています。

パソコン活用室

ほぼ毎日オフィスアワーが設けられており、教員や学生相談員が在室し、個別にサポートを行っています。

課外活動施設

学生会館

学生相互並びに学生・教職員間の親睦を深め、学生の教養を高め、課外活動を盛んにすること

テニスコートの利用について

課外活動のための施設です。共有部室、集会室、連絡室、練習室、和室、製作作業室があり

To students
在学生コンテンツ

学生ポータルサイト

お茶大IDでログインを行うと学生個別のインフォメーションが参照できます。

Closeup
クローズアップ

お茶大SCC

お茶の水女子大学の新しい姿

Related contents

【分析結果とその根拠理由】

履修科目数の上限設定や少人数構成の授業を行っていることから、単位の実質化が達成されていると判断される。また、様々な機会を通じて少人数制を活かした丁寧な履修指導と自主学習の啓発も行われ、学生は主体的に学習目標の設定を行うことができる。

観点⑥： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点到る状況】

シラバスは、授業科目名、担当教員、受講条件、講義目的、授業計画等の基本情報の他に、教科書や参考文献、成績の評価方法・評価割合と教員からのメッセージが示された、全学統一のフォーマットを用いて作成され、大学ホームページで見ることができる。本システムでは検索や逐次更新の機能が付加され、科目名、教員名だけでなく、プログラム別検索などが可能である。履修ガイドでは、履修登録の際にシラバスを参照

するよう呼びかけ、成績評価の方法についてもシラバスに記載されていることを紹介している（資料 基準 5－⑥－A：シラバス（大学ホームページ[お茶の水女子大学シラバス]）ならびに前掲資料 基準 5－③－A：シラバス例（p.30））。

学生への授業評価アンケートでは 59 %の学生がシラバスを参考にしてしていると回答し（資料 基準 5－⑥－B：シラバスの活用状況の調査「平成 22 年度お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」）、過去 3 年間、年々シラバス活用率が向上しており、必修科目の割合が低い学部ほどその活用率が高い傾向が見られる。

資料 基準5-⑥-A シラバス http://tw.ao.ocha.ac.jp/syllabus/index_search.cfm?jugyo=12C3029

年度

科目別検索

学科別検索

教員別検索

プログラム別検索

資格別検索

時間割検索

全文検索

基礎化学 B [12C3029]

科目名	基礎化学 B [12C3029] General Chemistry B
科目区分・科目種	化学科
クラス	化学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	鷹野 景子 [理学部]
主担当学科	化学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	木曜 3.0~4.0
教室	①理学部3号館701室

受講条件・その注意

特になし。高校化学の復習をしておいてください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：「ブラディ 一般化学（上）」若山・一国・大島訳（東京化学同人）

参考書：「大学の化学講義－高校化学とのかけはし－」杉森・富田（掌華房）、「一般化学」長島・富田（掌華房）、「新化学概論」吉岡（サイエンス社）

評価方法・評価割合

期末試験=50%, 中間試験=30%, 小論文（レポート）=10%, 出席=3分の2以上の出席が望ましい。（10%）

主題と目標

化学の基礎として、原子の成り立ち、元素の周期性、化学結合、分子の形、化学反応、物質の状態などについての基本的概念の理解を目標とする。高校までの定性的理解を定量的理解に高めることが大切である。

授業計画

次の項目について、1-2回の講義をする。講義中あるいは課題において、化学英語に触れる機会を導入する。

1. 序論、2. 化学量論、3. 元素の周期性と原子の成り立ち、4. 原子の電子構造と周期表、5. 化学結合、6. 分子の形と分子軌道、7. 化学反応、8. 物質の状態

学生へのメッセージ

高校までの化学と大学での化学のギャップに最初は戸惑うかもしれませんが、教科書を活用して勉強すれば理解が進みます。講義前には、教科書に目を通して、講義後には速やかに復習をして、自分で教科書の問題を解くことを勧めます。質問を歓迎します。

オフィスアワー：金曜日16時40分～18時（理学部1号館306室）

資料 基準5－⑥－B 平成22年度お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査

http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50744/1/11_1-101.pdf p. 22

			合計	学年				学部		
				1年	2年	3年	4年	文教育学部	理学部	生活科学部
Q15	外国語の自習教室 利用状況	毎週2回以上	16.2%	19.5%	17.8%	20.1%	9.8%	17.2%	13.8%	16.7%
		毎週1回程度	11.8%	18.1%	10.8%	9.8%	9.1%	14.1%	7.9%	11.5%
		月に数回	8.9%	10.6%	8.0%	9.8%	7.5%	9.4%	8.7%	8.2%
		月に1、2回	6.3%	8.4%	7.0%	3.1%	6.5%	6.9%	5.5%	5.9%
		年に数回あるいはそれ以下	31.1%	9.7%	34.3%	29.0%	46.3%	30.4%	33.5%	30.1%
		利用したことがない	21.8%	27.0%	20.7%	22.8%	17.9%	17.9%	26.8%	23.4%
	無回答	4.0%	6.6%	1.4%	5.4%	2.9%	4.0%	3.9%	4.1%	
Q16-1	教育サービス満足 度_シラバス	非常に満足	10.8%	6.6%	12.2%	12.1%	12.1%	11.9%	13.0%	7.1%
		やや満足	57.2%	68.1%	53.1%	47.8%	59.0%	58.4%	57.9%	54.6%
		やや不満	23.7%	15.0%	31.5%	29.0%	20.8%	22.1%	20.5%	29.4%
		非常に不満	3.4%	3.1%	0.9%	5.8%	3.6%	3.1%	2.4%	4.8%
		利用したことがない	1.0%	0.4%	0.9%	0.4%	2.0%	0.7%	2.4%	0.4%
		無回答	3.8%	6.6%	1.4%	4.9%	2.6%	3.8%	3.9%	3.7%

【分析結果とその根拠理由】

教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されていると判断される。

観点⑦： 基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

【観点に係る状況】

理系科目における分野間の相互的な基礎学力補完のためには、高校で未履修の理科科目の補完授業（「生物学サプリメント」「物理学サプリメント」）を開講し、入学後のオリエンテーションにおいて該当学生には履修を薦めている。また、さらに教員の「オフィスアワー」、スーパーバイザー制等により、学生が個別に相談しやすい体制を取り、シラバス等で周知している（前掲資料 基準5－③－A（p. 30）、資料 基準5－⑦－A：授業時間割（サプリメント科目記載のある1年生用）、基準5－⑦－B：ピアサポートプログラム）。化学科では、実習科目として1年次前期に入門的な「基本化学実験Ⅰ」を配し、高校での化学実験経験の差を初期に解消し、課題レポートを通じて、自主学習の習慣づけと基礎学力の不足を補填している。全学的に実施されている事例として、英語教育においては、入学時の TOEIC テストの結果に基づく習熟度別クラス編成を行っており、英語力が不足している学生には補習的な英語授業を開講している。

資料 基準5－⑦－A 授業時間割 (サプリメント科目記載のある1年生用 (平成23年度))

全学共通科目				5・6 時 限	7・8 時 限	9・10 時 限
曜 日	期	1・2 時 限	3・4 時 限	5・6 時 限	7・8 時 限	9・10 時 限
時間帯		9:00～10:30	10:40～12:10	13:20～14:50	15:00～16:30	16:40～18:10
月	前			12N0046 確率序論 (Ⅱ) 吉田 理3-701 12N0045 数理基礎論 (Ⅰ～Ⅱ) 戸次 理2-507 12N0001 NPO入門 桑名 共2-102		12N0057 TOEFL対策ゼミS/W a (Ⅰ～Ⅳ) 共1-202
	後		12N0022 博物館経営論 (Ⅰ～Ⅳ) 鷹野(光) 文1-308 12N0020 博物館活動特講講義 (Ⅰ～Ⅳ) 鷹野(光) 文1-308 12N0031 物理学概論A (Ⅰ～Ⅳ) 手嶋 理3-701			12N0058 TOEFL対策ゼミS/W b (Ⅰ～Ⅳ) 共1-202
	前					12N0048 生命情報学概論 (Ⅰ～Ⅳ) 由良 12N0002 女性リーダーへの道(入門編) 本-127
火	後		12N0023 博物館資料論 (Ⅰ～Ⅳ) 鷹野(光) 文1-307 12N0032 物理学概論B (Ⅰ～Ⅳ) 波部 理3-701 12N0019 博物館資料特講講義 (Ⅰ～Ⅳ) 鷹野(光) 文1-307	12N0036 基礎生物学B (Ⅰ～Ⅳ) 松浦小林 理3-701	12N0047 コピュータシステム序論 (Ⅰ～Ⅱ) 中屋 理3-701	12N0049 計算生物学 (Ⅰ～Ⅳ) 由良 共1-205 12N0003 女性リーダーへの道 (ロールモデル入門編) (Ⅰ～Ⅳ) 非常勤講師 本-306
	前			12N0006 キャリアプランとライフプランⅠ (Ⅰ) 望月 共2-101 12N0050 科学英語Ⅰ (Ⅰ～Ⅳ) 宮本 共1-203 12N0065 理数特別講義演習XⅤ (Ⅰ～Ⅳ)(4～5月,全8回) 本-128	12N0010 情報コミュニケーション・技能・情報性 (Ⅰ～Ⅳ) 石田 本-127 12N0066 職業社会の人間発達科学論A (Ⅰ～Ⅳ) 菅原 他 文1-301	12N0054 英語基礎強化ゼミ (Ⅰ～Ⅳ) 早野 共1-204
	後			12N0007 キャリアプランとライフプランⅡ (Ⅰ～Ⅳ) 望月 共1-401 12N0011 情報コミュニケーション・技能・情報性 (Ⅰ～Ⅳ) 石田 本-127	12N0004 女性リーダーへの道 (実務入門編) (Ⅰ～Ⅳ) 村山・水根 本-127 12N0067 職業社会の人間発達科学論B (Ⅰ～Ⅳ) 菅原 他 文1-301	
水	前				12N0027 初等解析学Ⅰ (Ⅰ～Ⅱ) 理1-207 12N0030 数の歴史 (Ⅰ) 榎川 理1-621	12N0055 TOEFL対策ゼミR/L a (Ⅰ～Ⅳ) 浦野 共1-202
	後			12N0028 初等線形代数学 (Ⅰ) 関根 理3-701	12N0005 平和と共生演習 (Ⅰ～Ⅳ) 専任教員 共1-203 12N0026 初等解析学Ⅰ (Ⅰ) 戸田 共1-205	12N0056 TOEFL対策ゼミR/L b (Ⅰ～Ⅳ) 浦野 共1-202
	前			12N0041 物理学基礎実験 (Ⅰ～Ⅳ)	古川・小野 共3-508 大戸(吉) 共1-205 村井 物理化学サブリメント 3選物理室	
木	前				12N0053 生物学サブリメント (Ⅰ) 12N0052 物理学サブリメント (Ⅰ)	
	後					
	前					
金	後					
	前					
	後					
開講学期		授業コード	科 目 名	教 室	教 員	
前集中	12N0040	地史・古生物学概論	理3-701	佐藤		
前集中	12N0043	生物学基礎実験	附1第1理科室	園部		
前集中	12N0044	物理学基礎実験	共3-409	古川		
後集中	12N0013	共生社会で働く	本-127	龍山		
未定	12N0061	理数特別講義演習Ⅲ	Ⅰ～Ⅳ			
未定	12N0062	理数特別講義演習Ⅳ	Ⅰ～Ⅳ			
未定	12N0063	理数特別講義演習Ⅴ	Ⅰ～Ⅳ			

資料 基準5-⑦-B ピアサポートプログラム

本学ホームページ (<http://www.ocha.ac.jp/campuslife/peer.html>)より抜粋

お茶の水女子大学 ピアサポート・プログラムとは

ピア（peer）という言葉は仲間という意味で、ピアサポート・プログラムは学生同士の支援制度です。「先生や事務の方に聞きに行くほどの問題ではないが、先輩や友達だったら気軽に質問できる」ということで、重要な学生支援制度の一つとなっています。

文教育学部では、新入生が学業面や生活面で困らないように、学科や講座ごとに先輩サポーターが新入生の支援を行っています。生活科学部や理学部でも、講座ごとに上級生が下級生のために学習支援を進めたり、各学年から学生委員を選出してその委員が中心になり、異学年の交流、就職活動や進路の情報交換等を行ったりしています。

グローバル教育センターでも、大学院生チューターが留学生相談室で日本語レポートや論文の添削、授業準備、情報提供など、留学生支援を行うとともに、留学生と日本人学生の国際交流グループ（TEA）も活発に交流活動をしています。このように、ピアサポート活動は「学生による学生のためのサポート」ですが、それを教員が支える二重の支援制度でもあるのです。

写真は一昨年の留学生と日本人学生の交流合宿を撮影したものです。



留学生と日本人学生の交流合宿

お茶の水女子大学全学ピアサポートの概要と特徴

各学部、グローバル教育センターが提供しているピアサポートの概要と特徴を以下の表にまとめました。

組織	設立年月	ピアサポートの内容と特徴
文教育学部 PSPページ 	2003年4月	主に、新入生の適応援助を目指し、講座ごとにボランティアで募集した先輩のサポーターが新入生の援助を行う。講座別に数名の教員がボランティアでアドバイザーとして関わる。
生活科学部	2004年4月	主に、学習支援や進路相談を目指し、学科や講座ごとに上級生が下級生に助言を行う。各学年の学生委員の選出、異学年の交流、進路の助言をしている。学科や講座の教員の代表が統括する。
理学部	2004年4月	主に、学習支援を目指し、学科ごとに上級生が下級生に（卒業生も含む）助言を行う。スーパーバイズ制を取り入れ教員が学生の個別指導、院生のTAの相談時間も確保し活用している。
グローバル教育センター （旧国際教育センター）	2002年4月	主に、留学生が留学目的を果たせるよう学習面、生活面からの支援と国際交流を目指す。大学院生チューターによる相談室運営と日本語添削と情報提供、国際交流グループ（TEA）の交流活動、国際学生宿舎メンターの生活面での助言を行う。相談担当の教員が全体のコーディネートをする。

【分析結果とその根拠理由】

入学当初において、基礎学力の不足について、配慮されたカリキュラムが構成されていると考えられる。

観点⑧： 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

理学部の学位授与の方針（ディプロマポリシー）は、学科ごとに明確に定めて、本学ホームページに掲載されている（資料 基準5－⑧－A）。

資料 基準5－⑧－A 本学ホームページ 『ディプロマポリシー（学部）』

(http://www.ocha.ac.jp/program/diploma_policy/undergrad.html)

■ 理学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部学士課程の修了を認める。
2. 理学部各学科が定めた教育課程を履修し、人類の英知が蓄積された理学の理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につけ、人類社会に対して多大な貢献が期待できる人材に対し、理学部学士課程の修了を認める。修了に際しては、卒業研究（数学講究もしくは特別研究）を行わなければならない。教員の指導のもとにテーマを選択し、自然科学の方法論に則って主体的に研究し、その成果を発表しなければならない。

(1) 数学科

- ① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部数学科学士課程の修了を認める。
- ② 学科が定めた教育課程を履修し、基礎的な数学的素養と論理的に問題を捉え解決する能力が身に付いていると判断するに足る十分な科目を修得できたものに数学講究の受講を認め、さらに、規定の単位数が取得できた上で最終試験に合格したものに学士課程の修了を認める。

(2) 物理学科

- ① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部物理学科学士課程の修了を認める。
- ② 学科が定めた教育課程を履修し、物理学の探求によって還元論的かつ多元的な観点を持って問題解決能力の向上を達成し、社会の各分野において活躍が期待できる人材に対して、学士課程の修了を認める。

(3) 化学科

- ① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部化学科学士課程の修了を認める。
- ② 学科が定めた教育課程を履修し、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関連した化学の理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につけ、人類社会に対して多大な貢献が期待できる人材に対し、学士課程の修了を認める。

(4) 生物学科

- ① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部生物学科学士課程の修了を認める。
- ② 学科が定めた教育課程を履修し、「生き物」の複雑で多様な生命現象の理論や知識を深く知り、さらにより広く高度な応用的または先進的な知識、理解力、論理力、実践手法を身につけ、人間社会に、より豊かな知の財産を築ける人材に対し、学士課程の修了を認める。

(5) 情報科学科

- ① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部情報科学科学士課程の修了を認める。
- ② 学科が定めた教育課程を履修し、プログラミングや数学等、情報科学の基礎知識と手法を広く学んだ上で、特定の数理領域もしくは応用領域において、科学的方法論に基づく情報科学の研究を経験し、学術的成果とそこで培った能力を広く社会に還元しうる人材に対し、学士課程の修了を認める。

【分析結果とその根拠理由】

適切に定められていると判断される。

観点⑨： 成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

成績評価は、各学部履修規程に基づき、試験、平常の成績及び出席状況を総合して決定している。評価は「S」「A」「B」「C」「D」の5種類の評語をもって表し、最上位の「S」については、平成22年度以前の入学者は全評価対象の5%以下（評価対象が20人未満の場合は1名以下）、平成23年度以降の入学者は15%以下というガイドラインを設けており、この成績評価基準は、『履修ガイド』（別添資料 基準5-⑨-3）に明記し、学生全員に配付して周知している。全学的なシラバス公開（前掲資料 基準5-③-A：シラバス例（p.30））と成績評価（Web資料 基準5-⑨-1と2、別添資料 基準5-⑨-3）の枠組に従って成績評価、単位認定を行っている。

Web 資料 基準5-⑨-1	成績評価基準 (http://www.ocha.ac.jp/education/about_grade.html)
Web 資料 基準5-⑨-2	GPA（教育開発センターのホームページ「GPA制度についての説明」） (https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/GPA.html)
別添資料 基準5-⑨-3	成績評価基準、GPA制度（「2012 履修ガイド」 p.31）

【分析結果とその根拠理由】

成績評価基準は、学則及び学部履修規程において策定し、『履修ガイド』等に明記しており、入学時のオリエンテーション等によって周知している。成績評価は、当該授業のシラバスに記された成績評価基準に従い担当教員によって授業ごとに適切に行われている。卒業論文・卒業研究の成績評価においても透明性が確保されている。以上より、成績評価基準が組織として策定されて学生に周知されており、これらに従って成績評価・単位認定・卒業認定が適切に実施されていると判断される。

観点⑩： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

履修ガイドや大学ホームページに公開されている、全学的な成績評価の枠組に従っている。卒業研究は、主査・副査の複数名による審査や卒業研究発表会を公開で行っている。評価の客観性、厳格性を担保するために教授会で審議されている（Web資料 基準5-⑩-1）。

また、成績評価に関する学生からの疑義については、直接担当教員に申し出る以外に教務チームでも問い合わせを受ける旨を履修ガイドに明記して学生に周知している（別添資料 基準5-⑩-2）。教務チームは平成23年度の1年間で理学部学生から21件の問い合わせに対応している（資料 基準5-⑩-A）。

資料 基準 5-⑩-A

成績評価に関する申立件数(平成 23 年度)

区 分	件数
文教育学部	93 件
理学部	21 件
生活科学部	51 件

(出典：教務チーム作成)

Web 資料 基準 5-⑩-1 教授会規則第 4 条

<http://www.ocha.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000009.htm>

別添資料 基準 5-⑩-2 教務関係の相談窓口（「2012 履修ガイド」p. 37）

【分析結果とその根拠理由】

成績評価については、予め基準を公示している。評価についての異議には、担当教員以外にも教務チームで対応する仕組みを設けている。卒業研究の成績評価は、学科・学部単位で複数教員による合議を経るなどしている。以上より、成績評価の正確さを担保するための措置が講じられていると判断される。

観点⑪： 学位授与方針に従って卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って卒業認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

卒業認定についても学則第 22 条（資料 基準 5-⑪-A：卒業認定に関する規則）及び各学部履修規程に示しており、『履修ガイド』（別添資料 基準 5-⑪-1）として学生に配布するとともに新入生オリエンテーションにおいて説明している。

教員は学則（資料 基準 5-⑪-A）、各学部履修規程（別添資料 基準 5-⑪-4）に基づき、成績評価の方法（出欠、レポート、試験の評価割合など）を策定し、シラバス等を通じて学生への周知を図っている（前掲資料 基準 5-③-A（p. 30）、基準 5-⑥-A（p. 42））。

卒業要件である卒業論文・卒業研究については、各コースや学科・講座において成績評価基準を取り決めており、卒論指導や卒論構想発表会等の機会を通じて学生に周知が図られている（Web 資料 基準 5-⑪-2、別添資料 基準 5-⑪-3）。各学科・コース・講座ごとに卒業認定審査を行い、最終的には教授会の審議を経て卒業認定を行っている（資料 基準 5-⑪-A）。

資料 基準 5-⑪-A 卒業認定に関する規則

国立大学法人お茶の水女子大学学則（抜粋）

(卒業)

第22条 学部にて4年以上在学し、定められた授業科目を履修し、124単位以上を修得した者は、卒業者としてこれに卒業証書を授与する。ただし、生活科学部食物栄養学科については、138単位以上を修得した者とする。

国立大学法人お茶の水女子大学教授会規則 (抜粋)

(審議事項)

第4条 教授会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 学部又は研究科の教育課程の編成に関する事項
- 二 学生の入学、卒業又は課程の修了その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- 三 教員の採用及び昇任のための選考に関する事項
- 四 その他当該学部等の教育研究及び運営に関する重要事項

別添資料 基準5-⑪-1	学則第22条 (「2012 履修ガイド」 p. 177)
Web 資料 基準5-⑪-2	学位規則 (http://www.ocha.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000003.htm)
別添資料 基準5-⑪-3	学位規則 (「2012 履修ガイド」 p. 223)
別添資料 基準5-⑪-4	理学部履修規程 (「2012 履修ガイド」 p. 202)

【分析結果とその根拠理由】

学位授与方針に従って卒業認定基準が組織として策定され、履修ガイドに明記されて学生に周知され、その基準に従って卒業認定が的確に実施されていると判断できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

当学部にて属する各学科の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)が明確に定められ、その様式が統一されている。学部、学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに即し、各学科の分野の専門教育にふさわしい教育課程が編成されているばかりでなく、副コース、卒研シフト、学際プログラムの設置など個々の学生の能力、個性、志向に配慮されたきめ細やかなカリキュラム編成が工夫されていることは、学生の保有する資質を伸ばすという教育の原点に照らし、極めて整合的な試みであり、評価に値する。

プロジェクトベースの学習の機会(理数学生応援プロジェクト)を提供し、授業時間外の活動として教員と大学院生TAによる指導を行い、成果を学会等で発表させた。教員によるプロジェクト提案および参加学生共に公募であり、自発的な活動が学部を活気づけている。さらに国外、国内の研修等、学習意欲を高めるための様々な授業外活動機会を提供している。

学習指導要領の改編期間にあたり、これまでの学生と学習内容が異なることから、高校の教員による補完授業(サブリメント)は特に重要な役割を果たすと考えられ、その体制ができています。

【改善を要する点】

育ちつつある自発性をさらに伸ばすことと、発信力を育成する必要がある。

「複数プログラム選択履修制度」を今後も継続的に実施する場合においては以下の点が懸念される。

- 1) 中学校、高等学校教育課程の改訂などに伴い、入学してくる学生の理数の力の低下は現実のものとなっている。従って、高等教育における専門課程の修得において現在の水準を維持するためには、理数の基礎的部分に、カリキュラムを多く割くことは必要である。しかしながら、複数プログラム選択履修制度の施行に伴い、前述の問題に対する対処は、授業時間の制約などの実質的なところで、従前のカリキュラム体系にくらべより困難になっている。
- 2) 複数プログラム選択履修制度の実施に当たっては、学生の選択の自由度を担保するため、授業科目の増大を引き起こす。一方で、教員定員は定常的な定割が行われ、このまま教員の減員が続けば、各授業の質を維持しながら本制度の継続は近い将来事実上困難となることが予想される。

基準6 学習成果

(1) 観点ごとの分析

観点①： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到係る状況】

理学部学生の平均単位取得数は、おおむね 150 であり（資料 基準6－①－A、教職課程の履修単位を含む）、卒業要件である 124 単位を大きく上まわっていた。

理学部生の4年間での卒業率は、おおむね9割前後であった（資料 基準6－①－B）。また、標準修業年限内×1.5年内卒業率は平成22年度で90%であったが、平成23年度では97%となり、ほぼすべての入学者が6年以内には卒業していることが判明した（資料 基準6－①－C）。

資格取得に関しては、教職免許取得率が毎年理学部卒業生では3割以上と高い数値を維持していたが、平成23年では22.6%と減少した（資料 基準6－①－D）。

卒業研究及び論文の内容はきわめて高い水準にある。このことを裏付けるように、博士前期課程（理学専攻及びライフサイエンス専攻生命科学コース）への進学後に、卒業研究の成果をもとに、国内外の学会発表、学会誌への論文投稿が数多くなされている（資料 基準6－①－E）。

資料 基準6－①－A 平成22, 23年度 理学部卒業生の取得総単位数（在学期間4年間の学生のみ）

	平成22年度卒業生	平成23年度卒業生
理学部	151.8	146.8

（教務チーム集計データ）

資料 基準6－①－B 平成22, 23年度 理学部 標準修業年限内卒業率

区 分	平成22年度			平成23年度		
	標準修業年限内の卒業生 (a)	標準修業年限前の入学者数 (b) ※19年度入学者	標準修業年限内の卒業生率 (a) / (b)	標準修業年限内の卒業生 (a)	標準修業年限前の入学者数 (b) ※20年度入学者	標準修業年限内の卒業生率 (a) / (b)
理学部	134	148	90.5%	131	147	89.1%

（教務チーム集計データ）

資料 基準6-①-C 平成 22, 23 年度 理学部 標準修業年限内×1.5 年内卒業率

区 分	平成 22 年度						平成 23 年度					
	(d)のうち〔標準修業年限×1.5〕年間に学位を取得した者の数(c)				〔標準修業年限×1.5〕年前 (平成 17 年度)の 入学者数(d)	〔標準修業年限×1.5〕年内卒業(修了)率 (c)/(d)	(d)のうち〔標準修業年限×1.5〕年間に学位を取得した者の数(c)				〔標準修業年限×1.5〕年前 (平成 18 年度)の 入学者数(d)	〔標準修業年限×1.5〕年内卒業(修了)率 (c)/(d)
	H20 年度卒業	H21 年度卒業	H22 年度卒業	計			H21 年度卒業	H22 年度卒業	H23 年度卒業	計		
理学部	131	5	2	138	154	90%	140	8	1	149	153	97%

(教務チーム集計データ)

資料 基準6-①-D 平成 22, 23 年度 理学部 教職免許取得者数

区 分	平成 22 年度			平成 23 年度		
	卒業生数 (a)	教職免許取得者数(b)	取得率 (b/a)	卒業生数 (a)	教職免許取得者数(b)	取得率 (b/a)
理学部	146	53	36.3%	137	31	22.6%

(教務チーム集計データ)

資料 基準6-①-E 平成 23 年度大学院前期課程理学専攻及びライフサイエンス専攻生命科学コース所属学生による業績

	論文数	国内学会発表数	国際学会発表数
理学専攻	9	169	28
ライフサイエンス専攻・生命科学コース	3	30	2

(教務チーム集計データ)

【分析結果とその根拠理由】

学生の在学中の学習は順調に行われ、質量両面にわたりその水準は高い。卒業論文、修士論文の高い完成度、教職免許取得者の多さなども、教育成果の高い水準を証明している。これらのことから、教育の成果や効果が上がっていると判断される。

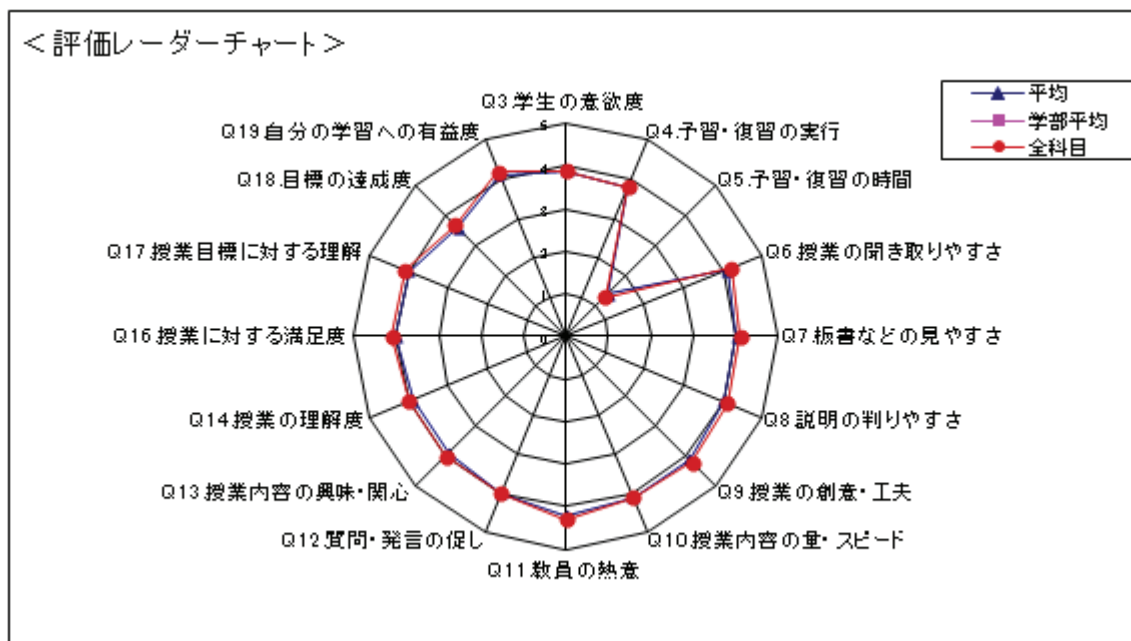
観点②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

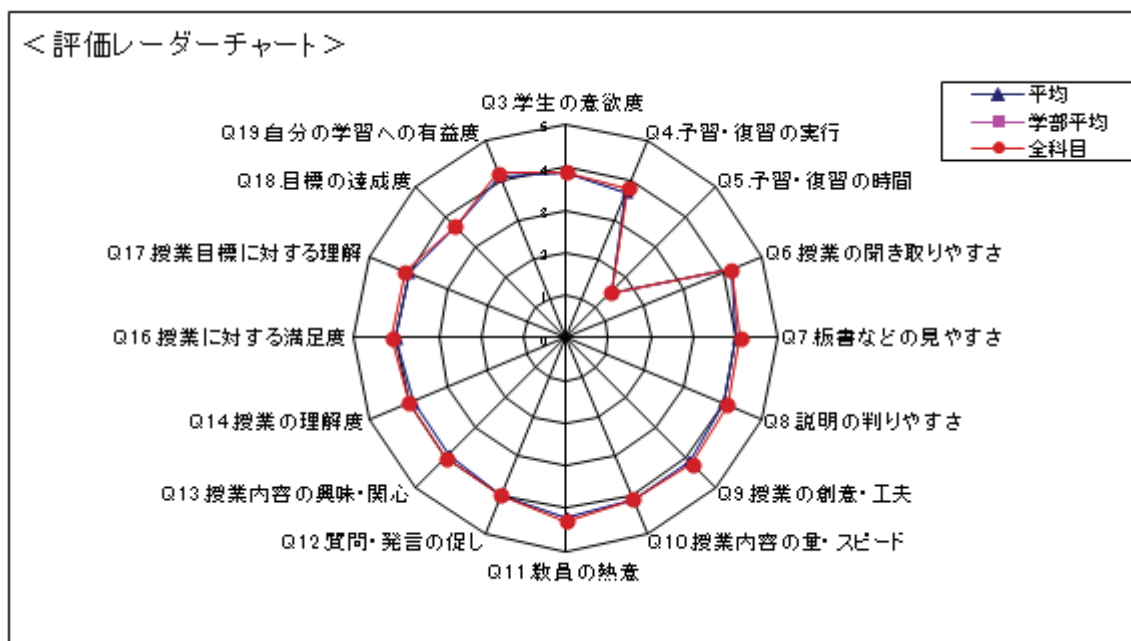
全学的に授業評価アンケートを実施し、学生の教育に対する満足度等を聴取し、その結果を各授業担当者にフィードバックするとともに、学部別の集計データを作成している。平成22, 23年度の集計データ（資料基準6-②-A）によると、学生の授業全般に対する評価はおおむね高く、5点満点でおおむね4点の評価を得ている。特に、理解度、満足度、有益度、達成度などにおいて高評価であり、80～90 %の学生が肯定的な回答（非常によい、もしくはよいという評価）を寄せている。

資料 基準6-②-A 授業評価アンケートの学部別集計結果（5段階評価の平均値）

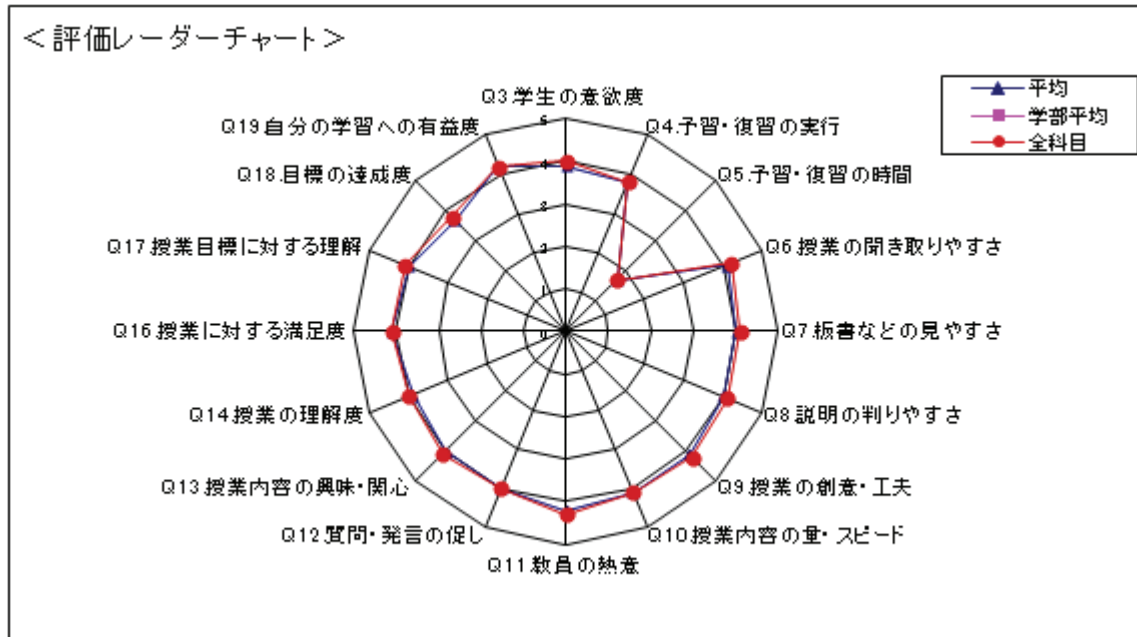
2010 年前期



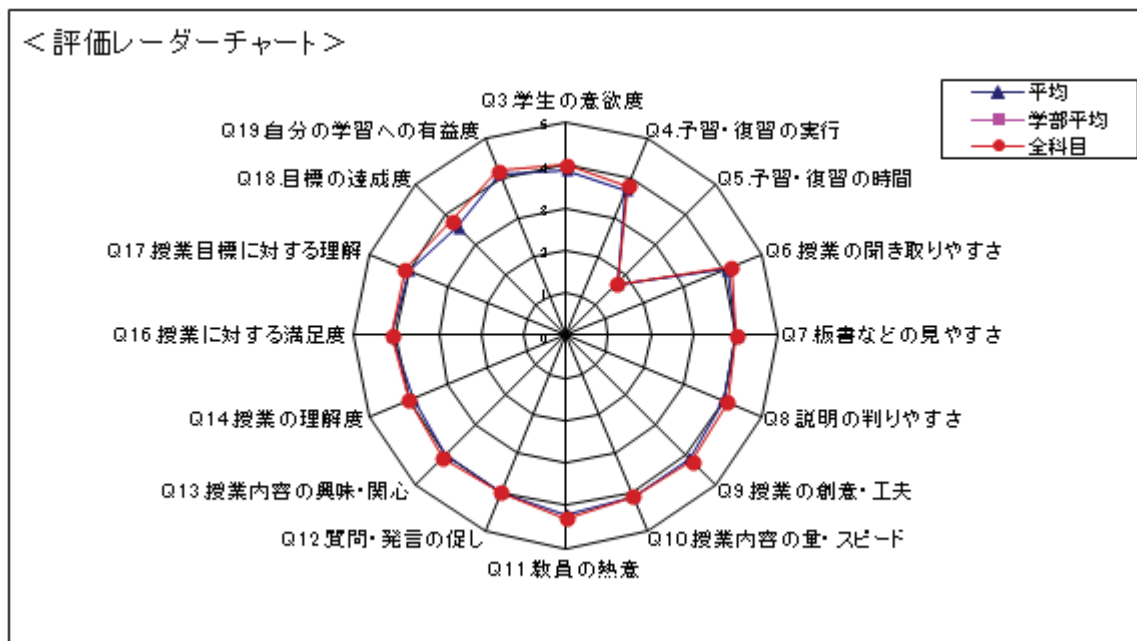
2010 年後期



2011 年前期



2011 年後期



【分析結果とその根拠理由】

学部授業評価アンケートを実施し、その結果は担当教員にフィードバックされ、全学的なFDの取組みにも活用されている。また、本アンケートの結果や学生意識調査の結果からも、学生の教育全般に対する満足度の高さが確認される。以上のことから、授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果があがっていると判断される。

観点③： 就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

理学部の学生の卒業後の進路の状況（資料 基準6－③－A）から大学院に進学する割合が 63.0%（平成22年度）と 61.3%（平成23年度）であり、就職希望者の就職率は 100%（平成22年度）と 95.8%（平成23年度）であることが分かる。尚、進路調査の未回答者はいずれも7名で、回答率は平成22年度が 95.2%、平成23年度が 94.9%である。平成23年度には、進学率、就職率に若干の低下が見られるが、実際は2名程度の違いであり、おおむね変化なく、高い進学率、就職率を維持しているといえる。

資料 基準6－③－A 進路の状況														
区 分	平成22年度							平成23年度						
	卒業 者数 (a)	進学状況		就職状況				卒業 者数 (a)	進学状況		就職状況			
		進学 者数 (b)	進学率 (b/a)	就職 者数 (d)	就職率 (d/a)	就職 希望 者数 (c)	就職希 望者の 就職率 (d/c)		進学 者数 (b)	進学率 (b/a)	就職 者数 (d)	就職率 (d/a)	就職 希望 者数 (c)	就職希 望者の 就職率 (d/c)
文教育学部	257	54	21.0%	151	58.8%	179	84.4%	237	47	19.8%	164	69.2%	170	96.5%
理学部	146	92	63.0%	47	32.2%	47	100.0%	137	84	61.3%	46	33.6%	48	95.8%
生活科学部	144	48	33.3%	79	54.9%	84	94.0%	140	46	32.9%	84	60.0%	90	93.3%
大学院人間文化研究科 （博士前期）	3	0	0.0%	0	0.0%	0	－	0	0	－	0	－	0	－
大学院人間文化研究科 （博士後期）	24	0	0.0%	9	37.5%	不明	－	49	0	0.0%	2	4.1%	不明	－
大学院人間文化創成科学 研究科（博士前期）	270	77	28.5%	141	52.2%	173	81.5%	229	45	19.7%	154	67.2%	163	94.5%
大学院人間文化創成科学 研究科（博士後期）	44	0	0.0%	9	20.5%	不明	－	39	0	0.0%	20	51.3%	不明	－
（学生・キャリア支援チーム作成）														

【分析結果とその根拠理由】

理学部卒業生の進学率は 60% 以上を維持しており、3 学部の中では最も高い。このことは、学部の教育によって専門分野に対する興味が育っていることを示すものである。就職希望者の就職率もほぼ 100% と高い状態を維持しており、学習の成果がこのような高い就職に結び付いていると判断できる。以上より、就職や進学の状況から、学習成果が上がっていると判断できる。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

学生の在学中の学習は順調に行われ、質量両面にわたりその水準は高い。卒業論文、修士論文の高い完成

度、教職免許取得者の多さなども、教育成果の高い水準を証明している。授業評価等、学生からの意見聴取の結果、ならびに進学率、就職率の高さからも、教育の成果があがっていると判断される。

【改善を要する点】

卒業生の人数が少ないために、年度ごとに進学率および就職率が揺らぐことが予想されるので、年ごとの変化の傾向を読み取るためには、未回答者の状況把握や学生相談室への相談内容の変化等にも、気を配っていく必要がある。

基準 7 施設・設備及び学生支援

(1) 観点ごとの分析

観点②： 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点到係る状況】

全学的には、情報推進室、情報基盤センター及び図書・情報チームが協力し学内の情報基盤整備が行われており、学生が自由に使える PC は、情報処理教室、図書館、キャリア支援センターなど学内の多くの場所に分散して配置されている（資料 基準 7－②－A）。附属図書館は平成 19 年に大規模な改修が行われ、学生の自学自習環境の向上のために学生用 PC が 70 台配備されたラーニング・コモンズが整備されている（資料 基準 7－②－B）。

理学部においては情報科学科には、主に学部 3 年生までの計算機実習等に用いられる講義室を兼ねた計算機室（理学部 3 号館 504 室）がある（4 年生以上は研究室に配属されるため各研究室のもつ機器を用いることが多い）。計算機室には学生端末システム（60 台）およびサーバシステムが設置されて有効に使われている。他の学科も 4 年生以上は研究室に配属されるため各研究室のもつ機器を用いることが多い。数学科は、談話室、数学図書室に学生が自由に使える情報機器が整備されている。学内ネットワークは、全学統合認証システムにより、安全かつ効率的に管理し、学内構成員の利用に供している。理学部建物の全ての室に情報コンセントが整備済みであると共に全学統合認証システムの無線 LAN 環境も整備され、理学部内の建物のほとんど全ての室からの無線 LAN 接続が可能な状況にある（資料 基準 7－②－C）。

資料 基準 7-②-A 情報基盤センター利用の手引き

<http://www.cc.ocha.ac.jp/gakunai/pdf/tebiki2012.pdf>

1. 施設案内

情報基盤センター（以下「センター」という）で管理する共用パソコンは、「IT ルーム 1～5」、附属図書館 1 階「ラーニング・コモンズ」で利用できます。「IT ルーム 1～5」は、授業中はその授業を履修していない学生は入室できません。（上記以外にもお茶大アカウントで利用できるパソコンがありますが、管理は情報基盤センターで行っておりませんので、利用する際は授業を担当する教員の指示や各場所の運用規則等に従ってください。）

また、認証ネットワークを利用して、自分のノートパソコンを有線や無線でお茶大のネットワークに接続することもできます。センター事務室では、パスワードの再発行等、教育用システムにおける各種事務手続きを行っています。パソコンの利用のしかた等のわからないことがある場合は、附属図書館 1 階ラーニング・コモンズにいるラーニング・アドバイザーが質問を受け付けています。

	IT ルーム 1	IT ルーム 2	IT ルーム 3
所在	理 3 号館 6 階	センター 1 階	理 2 号館 101
利用時間	8:30 ～ 17:00	9:00 ～ 17:30	8:30 ～ 17:00
用途	授業優先、自習	授業優先、自習	授業優先、自習
PC	Mac: 70 台	Mac: 51 台	Mac: 36 台
プリンタ	DC II 2200 1 台	DC II 2200 1 台	
	IT ルーム 4	IT ルーム 5	ラーニング・コモンズ
所在	理 2 号館 103	共 1 号館 1 階 107	附属図書館 1 階
利用時間	8:30 ～ 17:00		8:45 ～ 20:50
用途	授業優先、自習	授業、講習会	自習
PC	Win: 30 台	Win: 20 台	Mac: 40 台、Win: 30 台
プリンタ		DC II 2200 1 台	DC II 2200 2 台
備考			附属図書館 2 階には館内で利用可能なロッカーパソコン 72 台(Mac 及び Win 利用可)有り



コンピュータが設置してある場所（○：プリンタのある場所）

- IT ルーム 1 (②理 3 号館 601) ○
- IT ルーム 2 (①情報基盤センター 1 F) ○
- IT ルーム 3 (③理 2 号館 101)
- IT ルーム 4 (③理 2 号館 103)
- IT ルーム 5 (⑤共 1 号館 107) ○
- ラーニング・コモンズ (④附属図書館 1F) ○
- MMILL 教室 (⑤共 1 号館 201)
- 学生用 PC コーナー (⑥学生センター 2 F)

情報基盤センター事務室

10:00 ～ 17:00

<http://www.cc.ocha.ac.jp/>

資料 基準7-②-B 附属図書館利用案内

館内全体図

学内者

館内全域で、無線LANが使えます。

1 ラウンジ

週刊誌や情報誌の置いてある、くつろぎのスペースです。ピアノコンサートも行われます。

2 キャリアカフェ

コーヒーを飲みながら話すことのできる、グループ学習に最適な空間です。講演会など各種イベントも行われます。

3 ラーニング・commons

学生用のパソコンと持ち込みパソコンコーナーが設置されています。ラーニング・アドバイザーが質問や相談にこたえます。

4 1階オープン書庫

自由に入ることのできる書庫です。2階閲覧スペース奥の階段から入室します。1975年以前の資料や地方史などがあります。(開館30分前まで)

クワイエット・スタディスペース **5**

約100の座席を有する自習室です。

ノートパソコン自動貸出ロッカー **6**

学生証でノートパソコンを借りることができます。図書館内で利用できます。2階閲覧スペース内にもあります。

お持ち帰りコーナー **7**

本や雑誌、雑誌など、自由に持ち帰ることのできるものが置いてあります。

ロッカー **8**

当日中の利用に限り、手荷物を預けることができます。書庫を利用するときには、カバンをロッカーに入れてください。

閲覧スペース **9**

詳細は右の配置図をご覧ください。

書庫1～4

書庫4 (職員出納)
博士学位論文、お茶大資料 (TT1) 記念文庫等

書庫3
新聞雑誌版バックナンバー
白書バックナンバー、官報
国勢調査等統計バックナンバー

書庫2
お茶大刊行物、大学紀要 (A～T)

書庫1A
大学紀要 (T～)、短大・専門学校紀要
学術雑誌、一般雑誌 (A～F)

■書庫の利用について

- 書庫1～3には雑誌類のバックナンバー、記事類が並んでいます。学内の方は入室できます。サービスカウンターで手続きをしてください。(開館10分前まで)
- 保存書庫、書庫4等には入室できませんので、閲覧を希望される方はサービスカウンターにお申し込みください。
- 1階オープン書庫は自由に入れます。

書庫1B
学術雑誌、一般雑誌 (F～)、各省庁・地方公共団体
刊行雑誌、図書館・情報関係雑誌、出版社・書店のPR誌

ラウンジ キャリアカフェ ラーニング・commons

- 60 -

資料 基準 7-②-C お茶の水女子大学情報基盤センターのホームページ（認証ネットワークのページ）

<http://www.cc.ocha.ac.jp/f/menu5.html>



IT Center お茶の水女子大学情報基盤センター

IT Center TOP 教職員用WebMail 学生用WebMail お茶の水女子大学TOP

教育用システム
メール関連
申請書等
学内専用ページ
認証ネットワーク
よくある質問

認証ネットワーク

ご自分のノートパソコンをお茶大のネットワークに接続できます。

対象： 本学教職員、学生
お茶大アカウント(教職員、学生)が必要です。

認証ネットワーク(有線)が利用できる主な場所
ITルーム5
ラーニング・コモンズ（附属図書館1F）
クワイエット・スタディスペース 閲覧スペース（附属図書館2F）
共用談話室（学生会館）
マルシェ・リモーネ（大学生協）
共同学生研究室（人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟 401,501）

● [認証ネットワーク利用方法\(PDFファイル\)〈学内専用〉](#)

その他、現在ルータを設置してプライベートなLANを構築している研究室等に関しても、それぞれVLANの異なる認証ネットワークに変更できます。
詳細は情報基盤センターまで。

学内無線LANの利用

- 学内のさまざまな共用施設において無線LANがご利用になれます。
- 日時計のある広場、附属図書館前広場でも無線LANをご利用いただけます。

ご利用にあたっては、お茶大アカウントが必要です。

（注）Active!mail等は利用できるように、学内無線LANの認証に失敗する方は、お手数ですが、以下のリンク先にてパスワードを再登録してからご利用ください。

■ 統合認証でのパスワード設定(再登録)
<https://cuat.cc.ocha.ac.jp/changepw/>

【分析結果とその根拠理由】

全学的な ICT 環境に加え、理学部各学科においても十分な ICT 環境が整備され、有効に活用されている。以上のことから、教育課程の遂行に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されていると判断される。

観点③： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

教育研究上で必要な図書、学術雑誌、視聴覚資料は、一般教育・教養教育用については附属図書館を中心に系統的に整備され、理学部の専門教育については、理学部内の図書室（数学図書室、共通図書室、情報科学図書室）において専門ジャーナルを中心に系統的に整備されてきた。これら蔵書ならびに保存資料は附属図書館の検索システムにより、資料の検索は容易である（資料 基準 7－③－A）。しかしながら、近年の予算削減により、理学部各学科における図書、学術雑誌の購入はきわめて厳しい状況にあり、全ての学科で、大幅な学術雑誌の削減を行わざるを得なかった。ただし、ここ数年来は附属図書館が取り纏めを行うことにより、全学的視点からオンラインジャーナルの契約を行い、多くの学術雑誌から論文ならびに資料が個別にダウンロード可能な状況となり、幾分の改善が行われている（資料 基準 7－③－B）。

資料 基準 7－③－A 附属図書館蔵書検索ページ

<http://www.lib.ocha.ac.jp/opc/>

お茶の水女子大学附属図書館 OPAC

[利用の手引き](#) | [多言語表示の仕方](#) | [English version](#)

Home

簡易検索
詳細検索
新着雑誌
新着図書
オンラインサービス
ログイン

簡易検索画面

資料区分：☒ 全資料(雑誌特集記事除く)
☐ 図書 ☐ 雑誌 ☐ 視聴覚 ☐ 雑誌特集記事

和洋種別：☒ すべて ☐ 和書のみ ☐ 洋書のみ

フリーワード：

タイトル：

著者名：

出版者：

一覧表示順：タイトル ▼ を 昇順 ▼ で表示

一覧に表示する件数は 20 ▼ 件／頁とします。

[NACSIS Webcat](#) [Webcat Plus](#) [NDL-OPAC](#) [電子ジャーナル](#)

資料 基準 7-③-B 附属図書館電子ジャーナルリスト検索ページ

<http://yc6au9sr3t.search.serialssolutions.com/>

お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

電子ジャーナル・電子ブックリスト

電子ジャーナル・電子ブックリスト TOP ヘルプ 図書館 TOP

表示言語 (Language) : 日本語 English

本学の学生・教職員、附属校園の教職員が利用できる電子ジャーナルのリストです。すべて学内のPCからアクセスできます。学外からアクセスできるジャーナルもあります。詳細はこちら ([図書館HP「学外アクセスについて」](#)) をご覧ください。

+++公正利用の注意+++

- ・短時間に大量の論文をダウンロードしないでください。(特にソフトウェアを使用した自動ダウンロードは行わないでください。)
- ・ダウンロードした論文は個人の学術研究および学習以外の目的で使用しないでください。
- ・ダウンロードした論文の複製、他者への配布をしないでください。 ※不正利用があった場合、状況によっては大学全体がアクセスを禁じられます。

すべてのリソース Eジャーナルのみ Eブックのみ データベース

🔍 タイトルまたはISSN/ISBNから探す

この語句を含む |

入手したい論文の雑誌名、巻、号、ページがわかっている場合はこちら→[Citation Linker](#)
論文名や著者名で検索したい場合はこちら→[Ochanomizu Search](#)

🔍 タイトル (アルファベット順 / 五十音順) リスト

[O](#) [A](#) [B](#) [C](#) [D](#) [E](#) [F](#) [G](#) [H](#) [I](#) [J](#) [K](#) [L](#) [M](#) [N](#) [O](#) [P](#) [Q](#) [R](#) [S](#) [T](#) [U](#) [V](#) [W](#) [X](#) [Y](#) [Z](#) [その他](#)

あ い う え お か き く け こ さ し す せ そ た ち つ て と な に ぬ ね の ひ ふ へ ほ ま み む め も や ゆ よ り る れ ろ
わ

【分析結果とその根拠理由】

全学的な附属図書館システムにより、蔵書ならびに資料の検索ができるなどシステム的には充実しているが、理学部各学科における冊子体での学術雑誌購入の復活や専門教育の蔵書数の増加には図書関連予算の一層の充実が求められる。

観点④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

【観点に係る状況】

学生は入学すると、情報基盤センターから ID とパスワードが発給され、理学部建物内にある情報処理教室でも、PC を用いた自主的学習を行うことが可能である (資料 基準 7-④-A)。さらに、理学部は附属図書館からも遠くなく、同館での自主的学習を行うにも不便はない (前掲資料 基準 7-②-B (p. 60))。基本的には、理学部で管理する講義室、演習室は授業のない限り常時学生の自主的学習用に開放している。学科によっては学生が自由に利用可能な自習室、セミナー室なども整備されている。数学科、情報科学科にはそれぞれ学科図書室があり、物理学科、化学科、生物学科には共通図書室があり、オープンな閲覧用テーブルが設置されているものの、特に共通図書室は整備途上にあり、集中できる学習環境とは言い難い (資料 基準 7-④-B、写真

左)。また実験科学分野では、実験室内にデスクが羅列して置かれている所が殆どで、独立した学習スペースは設けられていない場合が多い(資料 基準 7-④-B、写真右)。

資料 基準 7-④-A 情報基盤センター教室紹介ページ (IT ルーム 1, 2, 4)

<http://www.cc.ocha.ac.jp/f/kyoshitsu.html>



IT Center

お茶の水女子大学情報基盤センター

[IT Center TOP](#)
[教職員用WebMail](#)
[学生用WebMail](#)
[お茶の水女子大学TOP](#)

教育用システム

利用マニュアル

教室紹介／開室時間

授業時間割

メール 関連

申請書等

学内専用ページ

認証ネットワーク

よくある質問

教室紹介・開室時間

平成24年度

	ITルーム1	ITルーム2	ITルーム3	ITルーム4	ITルーム5	ラーニング・コモンズ
所在	理学部3号館601	情報基盤センター104	理学部2号館101	理学部2号館103	共通講義等1号館107	附属図書館1階
利用時間	8:30 ~ 17:00	9:00 ~ 17:30	8:30 ~ 17:00	8:30 ~ 17:00		8:45 ~ 20:50
用途	授業優先・自習	授業優先・自習	授業優先・自習	授業優先・自習	授業・講習会	自習
PC	iMac: 70台	iMac: 51台	MacBook: 36台	Win: 30台	Win: 20台	Mac: 40台 Win: 30台
プリンタ/スキャナ/コピー	カラープリンター/コピー機 1台	カラープリンター/コピー機 1台 スキャナ 1台			カラープリンター/コピー機 1台	カラープリンター/コピー機 2台

土・日、祝祭日、年末年始および保守期間は開室します。
ラーニング・コモンズにはラーニングアドバイザーが常駐しております(平日 9:00~21:00)。わからないことがありましたらご質問下さい。

プリンター/コピー機をご利用の際は、プリペイドカードが必要です。
スキャナをご利用の際は、USBメモリが必要です。

他に以下の教室等にお茶大アカウント(教職員・学生)でログインできるマシンが設置されています。

- ・LL教室(共1号館201)
- ・学生用PCコーナー((仮称)学生センター2F)に iMac 4台

※ 平成24年度より学生情報サービス室はご利用になれません。

資料 基準 7－④－B 共通図書室及び学生実験室内での学習環境



【分析結果とその根拠理由】

情報基盤センターの情報処理教室も含め理学部建物内にある講義室、演習室は授業に支障のない限り学生の自主的学習に利用できる環境にある。学科によっては、自習室、セミナー室が設けられている。附属図書館の自主的学習環境も利用可能である。さらに、学内無線 LAN 等の学内 IT 基盤環境の整備により、学生の自主的学習を促進する体制も整備されている。しかし、例えば、実験科学分野では、実験スペースと独立した、学習や論文執筆に集中できるスペースは設けられていない場合が多い。以上のことから、学部低学年には自主的学習環境が十分に整備されつつあり効果的に利用されているが、卒研究生以上の高学年の学習環境は整備がまだ十分ではないと判断される。

観点⑤： 授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

理学部では、入学時に学科単位で詳細なガイダンスを一泊二日の学外合宿研修という形式で実施している（新入生セミナー）。教員複数名および4年次学生もしくは大学院生数名が各学科のカリキュラムの説明、授業の履修方法、学習方法の助言・相談などガイダンスを行っている。

その他各学科ごとに適宜、以下のことを実施している。

- 1) 毎年度始めに2年次学生主催の新入生歓迎会を開催している。学科によっては、教員や3年次・4年次学生も参加して交流を深めるとともに授業科目選択のガイダンスも行っている。
- 2) 毎年度ごとに学科全員（学部学生、大学院生、教員）あるいは特定の学年で一泊二日の学外合宿研修あるいは学内研修を実施し、学年を超えて交流することで教育理念を浸透させるとともに、授業科目や専門、専攻の選択のガイダンス、あるいは進路選択ガイダンスとして役立っている（資料 基準 7－⑤－A、B）。

資料 基準7-⑤-A 数学科 3・4生合同懇談会 通知

数学科3・4生合同懇談会のお知らせ

当教室では毎年、3年生に対して進路を考える参考になるように3・4年生合同懇談会を開催し、4年生から3年生にゼミ紹介や進路（就職・進学）を決める過程の体験談などを伝授する会を開いています。

その際には、卒業生の方も数人お招きし、ご自身の体験談を話して頂く講演会を併設しております。 本年も下記の要領で開催しますのでご参加ください。

4年生は各ゼミから一人は必ず出席してください。

講演会・懇談会

日時：11月18日（金）16：40から18：30位まで

銀行、メーカー、私立中学高校にお勤めの卒業生3名の講演

ゼミ紹介等

場所：お茶の水女子大学理学部1号館6階621室

懇親会（無料）

日時：11月18日（金）18：30位から20：00くらいまで

場所：お茶の水女子大学生協食堂

平成23年10月25日

世話人

数学科第3学年担当

真島

資料 基準7-⑤-B 物理学科 学外研修「草津セミナー」プログラム

日程：平成23年 11月2日（水）、3日（祝日）

会場：群馬大学草津セミナーハウス

参加者：教員、学部3,4年次生、大学院生

プログラム：

1日目7:40 集合

8:00 本学発

12:00 現地着

12:00-13:00 昼食

13:10-13:30 学部生ショートプレゼン(趣旨説明など)

13:30-13:32 素粒子研 学生2名(氏名省略)

～ 中略(発表 8件)

13:48-13:50 浜谷・外館研 学生1名(氏名省略)

14:00-14:15 大学院生発表 量子情報研 学生2名(氏名省略)

～ 中略（発表 5 件）

15:30-15:45 浜谷・外館研 学生 1 名（氏名省略）

16:00-17:30 学生企画催しドッジボール大会

18:30-19:30 夕食

19:30-21:30 学部生・院生ポスター発表・懇親会

2 日目 7:00-8:00 朝食

8:30-13:00 学生企画催し

13:00 セミナーハウス集合

13:30 現地発

17:30 本学着・解散

【分析結果とその根拠理由】

授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されていると判断される。授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスが年数回、多様な形式で反復的に行われており、適切に実施されていると判断される。

観点⑥： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

【観点到に係る状況】

各学科には各学年毎に学年担当の教員が配置されており、履修や学生生活の種々の相談に対応している。いくつかの学科では学生数名に対して教員を配置するスーパーバイザー制をとっている（資料 基準 7-⑥-A）。また、オフィスアワーを決め学生からの相談に応じている教員もいる一方、オフィスアワーは特に指定せず、学生の質問や相談に常時対応している場合もある。オフィスアワーの日時・場所、教員のメールは半期ごとに大学ホームページ及びシラバスに掲載し、周知を徹底している（前掲資料 基準 5-⑥-A（p. 42））。

資料 基準 7-⑥-A スーパーバイザー制の事例 (化学科ホームページ)

<http://www.sci.ocha.ac.jp/chemHP/support.html>

お茶の水女子大学理学部
化学科 Department of Chemistry

お茶の水女子大学
Ochanomizu University
▶ 化学科TOP

学科概要 学科長挨拶
教員紹介 研究分野・研究室
化学科カリキュラム
大学院 前期課程・後期課程
受験生の方へ 卒業後の進路・入試情報
教育と研究のサポート

TOP > 教育と研究のサポート

教育・研究のサポート体制

学部ならびに大学院における学習・研究をサポートするため、さまざまな制度やプロジェクトがあります。

【化学科(理学部)のサポート体制】

- スーパーバイザー制度
化学科の特色ある制度で、学生一人一人にそれぞれスーパーバイザーと呼ばれる担任教員が、毎年度の初めに決められます。学部生の皆さんが本学で快適に有意義に過ごしていくために教員がサポートします。授業履修に関する質問や相談、学習方法を含めた学生生活上の悩みなども気軽に相談してください。毎年春にスーパーバイザーとの顔合わせ(ミーティング)を行っています。
- 理数学生応援プロジェクト
- 宮島直美奨学金
- 優秀学生表彰制度、桜蔭会奨学金等

【化学・生物化学コース(大学院博士前期・後期課程)のサポート体制】

- TA(ティーチングアシスタント)制度
- 若手IIP(若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム)制度
- 桜蔭会奨励制度
- IIS(イニシアチブ・システム)制度

【分析結果とその根拠理由】

学年担当の教員、さらにスーパーバイザー制など各学科の工夫によりきめ細やかな相談、助言が適切に行われていると判断される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

学内の情報基盤ならびに学習環境は以前に比べるとかなり整備されつつある。

【改善を要する点】

理学部各学科における冊子体での学術雑誌購入の復活や専門教育の蔵書数の増加には図書関連予算の一層の充実が求められる。また、実験科学分野では、日本の主な研究機関や主要大学の学習環境と比較して、実験スペースと分離した学習スペースの整備はできておらず、学年が進むにつれ要求が高まっているため、整備する必要があり、予算計画が望まれる。

基準 8 教育の内部質保証システム

(1) 観点ごとの分析

観点①： 教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能しているか。

【観点到係る状況】

全学的には、学務関係、授業関係、進級・卒業・学位授与状況、入学試験等のデータや資料は、教務チームと入試チームが収集・蓄積している。理学部では、卒業論文あるいは卒業講究発表会資料は各学科事務又は担当教員が保存している。修士論文は理学部各学科事務により、保管されている。また博士論文は附属図書館に保管されていると共に Web 上でも題目を公開している（資料 基準 8-①-A）。また、授業評価アンケート調査結果の集計と分析結果および学生のコメントは授業担当の各教員にフィードバックされている。さらに、毎年度、教員活動データベースに教員自身が授業で行った特色ある取組み、及び研究指導の概要を入力することにより、自己点検・評価の一端としている（資料 基準 8-①-B）。

資料 基準 8-①-A お茶の水女子大学博士論文リスト <http://www.lib.ocha.ac.jp/gakui.html>



お茶の水女子大学附属図書館
Ochanomizu University Library

お茶の水女子大学ホームページ



HOME > 学内資料検索 > お茶の水女子大学博士論文リスト

[お問合せ](#)
[交通・地図](#)
[ENGLISH](#)

- 人間文化研究科 課程博士の表へ
- 人間文化創成科学研究科 課程博士の表へ
- 人間文化研究科 論文博士の表へ
- 名誉博士の表へ

※ お断り
氏名の漢字はウェブの機能の関係から
全てを正しく表記出来ません。
明らかに、類似漢字で表記しているものは緑色に着色しております。

■ お茶の水女子大学 博士授与名簿【人間文化研究科 課程修了によるもの】

	授与年月日	種 類	氏 名	論 文 名	専 攻
甲第1号	昭和56年3月23日	学位博士	久保田 紀久枝 くばた きくえ	新しいタンパク質資源としてのナンキョクオキアミの利用に関する基礎的研究—特にその匂い特性について—匂いと食文化	人間環境学
甲第2号	昭和56年3月23日	学位博士	榎本 陽子 えのもと ようこ	通路連結グラフの最小辺数について—グラフの通路連結性の応用について	比較文化学
甲第3号	昭和56年3月23日	学位博士	奈良 知恵 なら ちえ	ハミルトン・グラフについて—数学教育においてグラフ理論に期待されるもの	比較文化学
甲第4号	昭和56年9月30日	学位博士	駒城 素子 こまき もとこ	蛍光増白剤の生活環境学的研究—現代衣生活における白さに関する研究	人間環境学
甲第5号	昭和57年3月23日	学位博士	羽入 佐和子 はにゅう さわこ	インド哲学によるヤスパースの包摂者論の解明—比較的方法に関する一考察—「インド哲学によるヤスパースの包摂者論の解明」における方法について	比較文化学
甲第6号	昭和57年9月30日	学位博士	鶴飼 光子 つかい みつこ	中鎖脂肪酸トリグリセリドの利用に関する基礎的研究—人間環境学からみた食糧問題の分析と研究の方法論	人間環境学
甲第7号	昭和59年3月23日	学位博士	占部 久子 うらべ ひさこ	DNA二重らせんの集団運動の低周波ラマン散乱による研究—NAのやわらかさ—その進化における役割—	人間環境学
甲第8号	昭和61年3月23日	学位博士	本間 裕子 ほんま ゆうこ	On Some Classical Surfaces from a Projective Point of View (いくつかの古典的曲面の射影的性質について)—直観と幾何学—ポンスレの開形定理への多様な試み—	比較文化学

資料 基準 8-①-B 教員活動状況データベース

(活動内容入力画面)

https://new-era.procha.ac.jp/~ 教員評価システム - Windows Internet Explorer

お茶の水女子大学 Ochanomizu University

Logout マニュアル・各種書類 6: 御茶大 花子

■教育 ■授業担当 ■2004年度 ■大学院修士課程担当

氏名	学期	授業科目名	単位	担当比率 (%)	受講学生数	試験学生数	受講学
選択 Help 並び順							
学期	未入力						非公開 公開
授業科目名 (必須)							非公開 公開
単位数 (必須)	未入力						非公開 公開
担当比率 (%) ※複数教員で担当する場合							非公開 公開
受講学生数							非公開 公開
試験学生数							非公開 公開
受講学生の満足度 (教員による判断)	未入力						非公開 公開
備考 (授業名重複)							非公開

(評価結果画面)

教員評価システム - Web ページ ダイアログ

お茶の水女子大学 Ochanomizu University

Logout マニュアル・各種書類 14391491: 足利 義視

度数分布表

<出力設定>

年度 2010 年度

出力

教員		大学院博士後期課程専攻	
14391491	足利 義視	146700	今出川専攻

職位		役職	
1	10401	教授	

カテゴリ1	素点1	評価点1	ランク1	対象者数
1:教育	82.00	48.20	III	

90 - 94.9
85 - 89.9
80 - 84.9
75 - 79.9
70 - 74.9
65 - 69.9
60 - 64.9
55 - 59.9

https://new-era.procha.ac.jp/~ochahyo/WWW/main.cfm インターネット

【分析結果とその根拠理由】

学務と授業に関する基本的なデータや資料は、教務チームと入試チームに収集・蓄積されている。学生の論文等は、部局又は附属図書館に系統的に保管され、閲覧可能な状況になっている。大学ホームページ上にも、最近の活動の状況を中心に教員活動状況データベースにデータが蓄積されている。また教員の教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積している。学生による授業評価アンケートの統計的データ及びコメントによって、教員が授業を客観的に見ることができ、教員の授業改善の努力につながっている。以上より教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していると判断できる。

観点②：大学の構成員（学生及び教職員）の意見の聴取が行われており、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点到係る状況】

全学的には、授業評価アンケートを授業終了時に行っている。アンケートの設問は、満足度などを問う選択式と、自由記述となっている。アンケートデータを統計処理した後、統計データおよび記述式部分のコピーを担当教員に返却している。その主な目的が、授業の改善に役立てることであることは、教員に周知しており、授業改善に活用している（前掲資料 基準6-②-A (p. 54)）。また、教員相互の授業参観も実施し、そのアンケート結果も教員にフィードバックすることにより授業方法の改善に努めている（資料 基準8-②-A）。また、理学部の学科が主担当として、理科のサプリメント授業を開講し（前掲資料 基準5-③-A (p. 30)）、学生のベースラインをそろえるための理科基礎教育も実施している。

資料 基準8-②-A 理学部カリキュラム委員会議事録

平成22年7月22日

平成22年度 第三回理学部カリキュラム委員会議事録

7月20日（月）16時20分より、理学部ラウンジ

出席者（敬称略）：塚田、曹、外館、益田、鳶田、宮本、萩田、戸次、小川、

（教育改革部会）加藤、（教育支援チーム）山崎、（教務チーム）伊藤、

I 略

II 略

III 略

IV FD 授業参観

アンケートの集計結果(11件)が示され、参観状況が少ないことについて意見交換した。「参観期間を設けて敷居を下げて置くことに意義がある」「何年か行い殆どの人が一度は見た」「参観する時間の余裕が無い」等の意見の他、後期では参観を増やすためアナウンスを頻繁に回す事などが提案された。

平成 22 年 10 月 13 日

平成 22 年度第四回理学部カリキュラム委員会議事録

10 月 13 日（月）15 時 30 分より、理学部 1 号館 422（化学第一演習室）

出席者(敬称略)：塚田、戸田、堀江、曹、外館、益田、寫田、宮本、萩田、小川、（教育改革部会）加藤、（教育支援チーム）山崎、（教務チーム）伊藤。

① 略

② 略

③ 略

④ 略

⑤FD 授業参観、他。

11 月 1 日～11 月 26 日に従来通りに行う。参観を各学科で呼び掛ける。

【分析結果とその根拠理由】

継続的な授業評価アンケートにより、学生の意見聴取が適切に行われている。また教員相互の授業参観も実施されている。それらのアンケート結果は、授業担当教員にフィードバックも行っており、教育の状況に関する自己点検・評価に反映されている。このことから、学生及び教員への意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて適切な形で継続的な取組みがなされていると判断できる。

観点③： 学外関係者の意見が、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点に係る状況】

理学部独自の取り組みとして、学外関係者、たとえば卒業(修了生) および就職先企業関係者の意見のアンケート調査は、近年は実施していない。しかし、数学科では、夏期数学講習会で、化学科では化学科研修会に講師として招いた卒業生、桜化会(化学科卒業生、関連大学院修了生および現旧教員の会)の行事、あるいはホームカミングデー等において卒業生の声を聞く機会はある。現時点では体系的な意見聴取ではなく、個別の意見聴取であるが、教員が得た卒業生およびその関係者からの意見は教室会議を通じて、各学科教員間で情報の共有を行っている。また、理学部各学科には就職担当教員を配置し(資料 基準 8－③－A)、学外者(特に企業関係者)から直接に本学の卒業生及び大学院修了生に関する意見を聞く機会も多々あり、それらの意見を基に各学科での専門教育および研究指導の改善を図ることが可能な状況にはある。

資料 基準8-③-A 理学部就職担当教員一覧

<http://www.ocha.ac.jp/employment/company/list.html>

お茶大案内

学部・大学院

教育・研究プログラム

研究・産学連携

図書館

センター

附属学校

後援会・同窓

トップページ > 企業の方 > 就職担当教員一覧 (理学部)

■ 就職担当教員一覧 (理学部)

就職担当教員一覧 (理学部)

学部	学科	担当教員名	電話番号	メールアドレス
理学部	数学科	真島 秀行 (まじま ひでゆき)	03-5978-5309	math-shushoku@cc.ocha.ac.jp
理学部	物理学科	森川 雅博 (もりかわ まさひろ)	03-5978-5312	morikawa.masahiro@ocha.ac.jp
理学部	化学科	山田 眞二 (やまだ しんじ)	03-5978-5349 (火・水・金 13:00~16:00)	kagaku@cc.ocha.ac.jp
理学部	生物学科	高田 智 (しまだ さとし)	03-5978-5356	-----
理学部	情報科学科	吉田 裕亮 (よしだ ひろあき)	03-5978-5386	yoshida@is.ocha.ac.jp
理学部	情報科学科	小口 正人 (おぐち まさと)	03-5978-5379	oguchi@computer.org

* 文教育学部、生活科学部および大学院については、就職担当教員はおりませんので、窓口は、学生・キャリア支援チーム就職担当となっております。

[^ ページの先頭へ](#)

【分析結果とその根拠理由】

学外関係者からの意見聴取は可能な状況であり、実際に多くの意見を各学科で収集してはいるが、具体的かつ継続的に適切な形で活かすまでには達しておらず、個別的な情報に留まっていると思われる。全学レベルでの体系的な取組みが必要である。

観点④： ファカルティ・ディベロップメントが適切に実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点到係る状況】

理学部では理学部カリキュラム委員会において各教員が授業教員相互間での授業参観を行うための連絡調整を行い(前掲資料 基準8-②-A 理学部カリキュラム委員会議事録 (p.71))、各学科のカリキュラム委員から学科教員に周知することにより、授業参観を行ってきた。参観者アンケートからのコメントを授業担当者に開示して、授業の改善を図っている。理学部としては、さらに、「国際規格によるFD戦略」事業によ

り、外国大学からの招聘講師によるFD講演会への参加を促している。また一方で、同事業により理学部担当の10名の教員が諸外国に派遣され、外国の授業の参観や施設の見学、カリキュラムならびに研究指導手法の調査などを行った（資料 基準8-④-A）。

資料 基準8-④-A 国際規格のFD戦略事業による教員海外派遣研修一覧

<http://www.ocha.ac.jp/fd/research/index.htm>



お茶の水女子大学のFD

FD授業参観

イベント

教育研修・調査

リレーエッセイ

他大学の取組

国際規格のFD戦略事業による教員海外派遣研修一覧

2010.10	第5回 教員海外派遣研修 越南 ホーチミン 詳細	お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター 准教授:村山 真理
2010.10	第4回 教員海外派遣研修 仏国 ノリ大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 先端融合系 准教授:長谷川 直子
2010.10	第5回 教員海外派遣研修 丁抹 コペンハーゲン大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系 教授:吉田 裕亮
2010.08	第5回 教員海外派遣研修 韓国 梨花女子大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 人間科学系 准教授:申 珥榮
2010.02	第5回 教員海外派遣研修 濠洲 オーストラリア国立大学 詳細	お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター 講師:仲矢 史雄
2010.02	第4回 教員海外派遣研修 米国 カリフォルニア大学リバーサイド校他 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 人間科学系 教授:石井 クナツ 昌子
2009.12	第4回 教員海外派遣研修 埃国 マンソウラ大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系 准教授:森 義仁
2009.11	第4回 教員海外派遣研修 英国ロンドン大学 LSE 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学学科 自然・応用科学系:准教授 萩田真理子
2009.11	第4回 教員海外派遣研修 米国ヴァッサー大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学学科 文化科学系:教授 三浦 徹
2009.11	第4回 教員海外派遣研修 米国ヴァッサー大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学学科 文化科学系:教授 菅 聡子
2009.11	第4回 教員海外派遣研修 仏国ESPCI 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学学科 自然・応用科学系:教授 奥村剛
2009.9	第3回 教員海外派遣研修 英国ロンドン大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学学科 文化科学系:教授 宮尾正樹
2009.9	第3回 教員海外派遣研修 英国ロンドン大学 詳細	お茶の水女子大学グローバル教育センター:外国語教員 方美麗
2009.3	第2回 教員海外派遣研修 波蘭・独国 ワルシャワ大学・ミュンヘン大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 文化科学系 准教授:森山 新
2009.3	教育現地調査 韓国 淑明女子大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 文化科学系 教授(前教育機構長):三浦 徹 お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系(食物栄養学)教授:香西 みどり お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系准教授(物理学)准教授:曾 基哲
2009.3	第2回 教員海外派遣研修 英国ハル大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系(化学):リサーチフェロー(現准教授) 宮本恵子
2009.3	第2回 教員海外派遣研修 英国ハル大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系(化学):教授 鷹野景子
2008.12	第2回 教員海外派遣研修 台湾 清華大学 - 4th International Symposium on Radiation Education - 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系(ラジオアイソトープ実験センター)講師:古田悦子
2008.9	教育現地調査 米国 ヴァッサー大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 文化科学系教授(前教育機構長):三浦 徹 お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 文化科学系(言語文化学)准教授:戸谷 陽子 お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系(化学)准教授:近藤 敏啓 お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系(生物学)講師:近藤 るみ
2008.9	第1回 教員海外派遣研修 米国 カリフォルニア大学デービス校・IEEE VisWeek 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系(情報科学)准教授:伊藤貴之
2008.9	教育現地調査 韓国 梨花女子大学 詳細	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 文化科学系 教授(前教育機構長):三浦 徹 准教授:森山 新

【分析結果とその根拠理由】

専門科目の授業参観及びFD講演会への積極的な参加を促すなど基本的な研修に加え、諸外国の教育制度等の調査活動にも出掛けるなど国際的な視野に立ったFD研修を行っている。研修結果のフィードバックを含め、組織的な教育の質の向上を図る必要がある。

観点⑤： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

TA の配置の理念を明確にし、教育の質の向上と TA を務める学生の資質向上のため、以下の段取りで TA を採用している。TA 配置科目の申請（担当学科、部局単位）→TA 配置科目の認定→TA 候補者の届出→TA 採用の決定→全学 TA 研修会の実施（4 月と 10 月、心構えなどの指導）→TA の仕事実施→終了後に、TA と担当教員からの報告書の提出を義務付けている（資料 基準 8－⑤－A）。

資料 基準 8－⑤－A ティーチング・アシスタント取扱要項

国立大学法人お茶の水女子大学ティーチング・アシスタント取扱要項（抜粋）

（趣旨）

第 1 条 この要項は、国立大学法人お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科(以下「研究科」という。)に在籍する優秀な学生をティーチング・アシスタント(以下「TA」という。)として教育補助業務を行わせ、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当支給により、処遇の改善に資するため、必要な事項を定める。

（職務内容）

第 2 条 TA は、授業担当教員の指示に従い、学部又は研究科博士前期課程の学生に対する講義、実験、実習、演習等の教育補助業務に従事する。

～（略）～

（実施計画）

第 1 1 条 授業担当教員等は、TA に教育補助業務を行わせる授業科目について、別に定めるところにより実施計画書を作成するものとする。

（実施報告書）

第 1 2 条 TA は、毎年度末又は毎学期末までに、別に定めるところにより実施報告書を教育機構長に提出するものとする。

（研修）

第 1 3 条 学長は、TA に対して、必要な研修を行うものとする。

【分析結果とその根拠理由】

TA の配置の理念を明確化し、前期・後期の講義開始時期に TA の研修会を全学的に行うとともに、終了時に報告書の提出を求め、TA として教育を補助する学生の資質の向上を図るなど、教育支援者や教育補助者に資質を向上してもらうための取組みが適切に行われていると判断できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

教育の内部質保証システムとしては、全学的に授業概要、シラバスの作成がなされ、授業評価アンケートがあり、教育の状況を把握するシステムがある。理学部においては、理学部の各学科会議、理学部カリキュラム委員会が適宜開催され、教育の質の向上、改善の話し合いがなされている。特にここ数年間はカリキュラムの大幅な改訂が行なわれ、現在の教育の質の向上ならびに改善のシステムは機能しているといえる。

【改善を要する点】

授業参観ならびにFD 事業を行うなどして、教育の質の向上・改善への試みは行われている。学外関係者からの意見を体系的に活用したり、各教員レベルでの連携を充実させることで教育の質の向上・改善の取り組みを推進することが望ましい。加えて、全学レベルでの取り組みを充実させることが望まれる。

基準 10 教育情報等の公表

(1) 観点ごとの分析

観点①： 大学の目的（学士課程であれば学部、学科又は課程等ごと、大学院課程であれば研究科又は専攻等ごとを含む。）が、適切に公表されるとともに、構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

【観点到係る状況】

理学部の目的は、学則の一部として（web 資料 基準 10-①-1）大学ホームページ上で社会一般に広く公表している。また、アドミッション・ポリシー（web 資料 基準 10-①-2）においても目的と教育理念を記載している。学外者に向けては、大学見学会（学部及び大学院）で目的と教育理念を説明しているほか、シンポジウム・公開講演会等の各種行事を通じて理学部の目的と理念を提示している。一方、構成員に対しては、学生に配布される『履修ガイド』の学則に明記（別添資料 基準 10-①-3 pp.174-176（学則））するとともに、新入生へのオリエンテーションなどを通じ周知させている。

web 資料 基準 10-①-1	大学ホームページ 学則の掲載箇所（学則） (http://www.ocha.ac.jp/reiki/aggregate/catalog/index.htm)
web 資料 基準 10-①-2	大学ホームページ 学部アドミッション・ポリシーの掲載箇所（平成 24 年度） (http://www.ao.ocha.ac.jp/admissionpolicy.html)
別添資料 基準 10-①-3	履修ガイド（平成 24 年度） IV 諸規程等〔規則集〕 p.175

【分析結果とその根拠理由】

理学部の理念と目的は、印刷物や大学ホームページを通じて公開され、教員・学生・受験生・一般が広く閲覧できる。また、学内でのオリエンテーション、大学見学会や各種行事を通じて、それらを発信する機会を頻繁に設けており、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されていると判断される。

観点②： 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表、周知されているか。

【観点到係る状況】

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー、以下AP）は、入学者選抜要項（web資料 基準10-②-1）及び各種入試の学生募集要項（web資料 基準10-②-2～6、前掲別添資料 基準4-②-7（p.18））に掲載し、それを多方面に配布、公表、周知している。また、大学ホームページからも、これらの募集要項等は自由にダウンロードできる（web資料 基準10-②-7）。その他、大学ホームページには、APに関する独立したページも設けており、学部入試（一年次入学）における各種のAPを一括して掲載している（web資料 基準10-②-8）。教育課程の編成・実施方針に関しては、大学ホームページに掲載し一般に公表する（web資料 基準10-②-9）とともに、学生と教職員に配布する履修ガイドにも掲載する事により構成員に周知

している（別添資料 基準10-②-10）。学位授与方針（ディプロマポリシー）に関しては、大学ホームページに掲載公表する（web資料 基準10-②-11）とともに、入学ガイダンス時などを使って構成員に周知している。

web 資料	基準 10-②-1	大学ホームページ 平成24年度 入学者選抜要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_about.pdf)
web 資料	基準 10-②-2	大学ホームページ 平成 24 年度 一般入試（前期日程・後期日程）募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_general.pdf)
web 資料	基準 10-②-3	大学ホームページ 平成 24 年度 A0 入試（アドミッション・オフィス入試）募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_ao.pdf)
web 資料	基準 10-②-4	大学ホームページ 平成 24 年度 推薦入試・帰国子女外国学校出身者特別入試募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_recommendation.pdf)
web 資料	基準 10-②-5	大学ホームページ 平成 24 年度 私費外国人留学生（学部）募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_foreign.pdf)
web 資料	基準 10-②-6	大学ホームページ 平成 24 年度 理学部 第 3 年次編入学募集要項（社会人特別選抜を含む） (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_ri.pdf)
web 資料	基準 10-②-7	大学ホームページ 入試情報（募集要項掲載ページ） (http://www.ao.ocha.ac.jp/application.html)
web 資料	基準 10-②-8	大学ホームページ 入試情報（アドミッション・ポリシー掲載ページ） (http://www.ao.ocha.ac.jp/admissionpolicy.html)
web 資料	基準 10-②-9	大学ホームページ 教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー） (http://www.ocha.ac.jp/program/curriculum_policy/undergrad.html)
別添資料	基準 10-②-10	履修ガイド（平成 24 年度） IV 諸規程等〔規則集〕 pp. 183-222
web 資料	基準 10-②-11	大学ホームページ 学位授与方針（ディプロマポリシー） (http://www.ocha.ac.jp/program/diploma_policy/undergrad.html)

【分析結果とその根拠理由】

AP は、それぞれの教育の目的に沿って、全学、各学部、各学科等で策定され、募集要項の配布や大学ホームページにおける掲載等により、多方面に公表、周知されている。また、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについても、大学ホームページに掲載公表するとともに、履修ガイドの配布や入学時のガイダンスなどを使って構成員に周知されている。以上のことから教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された AP、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが明確に定められ、公表、周知されていると判断される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

理学部の目的が、各種印刷物や大学ホームページを通じて、また教育活動や各種行事の場で、明確かつわかりやすく具体化されて、教職員、学生、受験生、社会に向けて公表されている。AP、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーが教育の目的に沿って策定され、募集要項の配布や大学ホームページにおける掲載等により、国内・国外に公表されている。

【改善を要する点】

発信された情報の周知状況に注意して、今後の情報発信のやり方を検討する。

平成 24 年度 お茶の水女子大学理学部 部局別評価
自己評価委員会記録

○自己評価委員一覧

委員長/委員 等	委員氏名・役職	執筆担当箇所
理学部長	最上善広・教授	学部の現況及び特徴, 目的
委員長	小川温子・教授	基準5観点1-7,
委員	塚田和美・教授	基準1, 2, 3, 基準7観点5・6
委員	古川はづき・教授	基準4, 基準10
委員	吉田裕亮・教授	基準7観点2-4, 基準8
委員	近藤るみ・講師	基準5観点8・9・11、基準6
総合評価室員	相川京子・准教授	(評価書案全体の精査)
総合評価室員	萩田真理子・准教授	(評価書案全体の精査)

○自己評価委員会等の記録

委員会等	日時・開催場所	委員会等内容
第1回委員会	2011. 12. 27・理学部長室	理学部部局別評価実施方針の確認
第2回委員会	2012 年 2 月 23 日 (生物学科セミナー室)	委員長の選出、外部評価委員の推薦、記載分担、今後の予定
第3回委員会	2012 年 3 月 14 日 (生物学科セミナー室)	自己評価書原稿作成のためのデータ所在、予定確認
自己評価に関する説明会	2012 年 4 月 25 日, 27 日 (本館 103 室)	総合評価室による全体説明
第4回委員会	2012 年 5 月 10 日 (生物学科セミナー室)	執筆・提出・チェック手順の確認、資料の分配、
第5回委員会	2012 年 7 月 15 日 (ネット上)	評価書類学科分担項目の一次原稿融合版の配布およびメールによる修正意見交換
第1回 評価書案の精査WG	2012 年 7 月 27 日 (化学科第一演習室) 10:30-12:30	総合評価室員を交えての評価書案の精査 (最上、相川、萩田、小川)
第2回 評価書案の精査WG	2012 年 7 月 30 日 (化学科第一演習室) 10:00-12:00	総合評価室員を交えての評価書案の精査 (続き) (最上、相川、萩田、小川)

○備考

お茶の水女子大学理学部 自己評価書 Web 資料一覧

■基準 4 学生の受入

基準 4 観点①		
web 資料	基準 4-①-1	学部の入学者受入方針（大学ホームページ「入試情報」） (http://www.ao.ocha.ac.jp/admissionpolicy.html)
web 資料	基準 4-①-2	学部の入学者受入方針（「平成24年度入学者選抜要項」 [学部] p.3） (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_about.pdf)
基準 4 観点②		
web 資料	基準 4-②-1	平成24年度 入学者選抜要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_about.pdf)
web 資料	基準 4-②-2	平成24年度 一般入試(前期日程・後期日程) 募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_general.pdf)
web 資料	基準 4-②-3	平成24年度 推薦入試・帰国子女外国学校出身者特別入試募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_recommendation.pdf)
web 資料	基準 4-②-4	平成24年度 私費外国人留学生(学部) 募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_foreign.pdf)
web 資料	基準 4-②-5	平成24年度 理学部 第3年次編入学募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_ri.pdf)
web 資料	基準 4-②-6	平成24年度 A0入試(アドミッション・オフィス入試) 募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_ao.pdf)
基準 4 観点③		
web 資料	基準 4-③-1	国立大学法人お茶の水女子大学入学試験実施委員会規則 (http://www.ocha.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000029.htm)
web 資料	基準 4-③-2	国立大学法人お茶の水女子大学学部入試実施部会規程 (http://www.ocha.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000030.htm)
web 資料	基準 4-③-3	お茶の水女子大学入試情報サイト（合格者平均点掲載ページ） (http://www.ao.ocha.ac.jp/average.html)

■基準 5 教育内容及び方法

基準 5 観点③		
web 資料	基準 5-③-4	研究者情報(大学ホームページ「お茶の水女子大学研究者情報」) (http://researchers.ao.ocha.ac.jp/)
web 資料	基準 5-③-5	21 世紀型文理融合リベラルアーツのホームページ (http://www.ocha.ac.jp/la/home/index.htm)
web 資料	基準 5-③-6	文理融合リベラルアーツ科目（シラバス） (http://tw.ao.ocha.ac.jp/syllabus/pdf/コア科目.pdf)
基準 5 観点⑨		

Web 資料	基準 5－⑨－1	成績評価基準 (http://www.ocha.ac.jp/education/about_grade.html)
Web 資料	基準 5－⑨－2	GPA (教育開発センターのホームページ「GPA 制度についての説明」) (https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/GPA.html)
Web 資料	基準 5－⑨－4	シラバスの活用状況の調査「平成 22 年度お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」 (http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50744/1/11_1-101.pdf p. 22)
基準 5 観点⑩		
Web 資料	基準 5－⑩－1	教授会規則第 4 条 (http://www.ocha.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000009.htm)
基準 5 観点⑪		
Web 資料	基準 5－⑪－2	学位規則 (http://www.ocha.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000003.htm)

■基準 10 教育情報等の公表

基準 10 観点①		
web 資料	基準 10－①－1	大学ホームページ 学則の掲載箇所 (学則) (http://www.ocha.ac.jp/reiki/aggregate/catalog/index.htm)
web 資料	基準 10－①－2	大学ホームページ 学部アドミッション・ポリシーの掲載箇所 (平成 24 年度) (http://www.ao.ocha.ac.jp/admissionpolicy.html)
基準 10 観点②		
web 資料	基準 10－②－1	大学ホームページ 平成 24 年度 入学者選抜要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_about.pdf)
web 資料	基準 10－②－2	大学ホームページ 平成 24 年度 一般入試 (前期日程・後期日程) 募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_general.pdf)
web 資料	基準 10－②－3	大学ホームページ 平成 24 年度 AO 入試 (アドミッション・オフィス入試) 募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_ao.pdf)
web 資料	基準 10－②－4	大学ホームページ 平成 24 年度 推薦入試・帰国子女外国学校出身者特別入試募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/H24_recommendation.pdf)
web 資料	基準 10－②－5	大学ホームページ 平成 24 年度 私費外国人留学生 (学部) 募集要項 (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_foreign.pdf)
web 資料	基準 10－②－6	大学ホームページ 平成 24 年度 理学部 第 3 年次編入学募集要項 (社会人特別選抜を含む) (http://www.ao.ocha.ac.jp/application/h24_ri.pdf)

web 資料	基準 10-②-7	大学ホームページ 入試情報（募集要項掲載ページ） (http://www.ao.ocha.ac.jp/application.html)
web 資料	基準 10-②-8	大学ホームページ 入試情報（アドミッション・ポリシー掲載ページ） (http://www.ao.ocha.ac.jp/admissionpolicy.html)
web 資料	基準 10-②-9	大学ホームページ 教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー） (http://www.ocha.ac.jp/program/curriculum_policy/undergrad.html)
web 資料	基準 10-②-11	大学ホームページ 学位授与方針（ディプロマポリシー） (http://www.ocha.ac.jp/program/diploma_policy/undergrad.html)